

学習者用操作マニュアル

マルチメディア授業支援システム

ライブラリー学習者ソフト

品番 WE-AS866A

もくじ

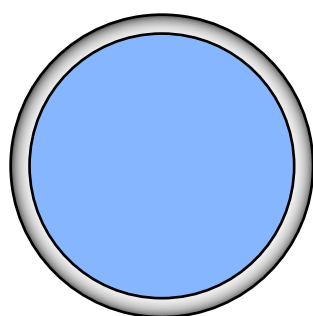
はじめに	3
第1章 基本的な操作方法	10
第2章 STRパネルの操作方法	31
第3章 波形パネルの操作方法	55
第4章 教材持ち帰りソフトの操作方法 ...	80
付録	90

はじめに

本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約書に基づいて提供され、その内容に同意する場合のみ使用することができます。本書に記載された内容は、情報の提供のみを目的としており、予告なしに変更されることがあります。また、本書には正確な情報を記載するように努めましたが、誤りや不正確な記述があった場合にも、松下電器産業株式会社 (Matsushita Electric Industrial Co., Ltd.) はいかなる責任、債務も負わないものとします

商標および登録商標について

- L3 Stage1は、松下電器産業株式会社の商標です。
- PERSONAL SURROUNDは、松下電器産業株式会社の登録商標です。
- Adobe®、Adobeロゴ、Acrobat® Reader®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。
- Microsoft®、Windows®およびWindowsロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft® Windows Media® Playerは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。



はじめに

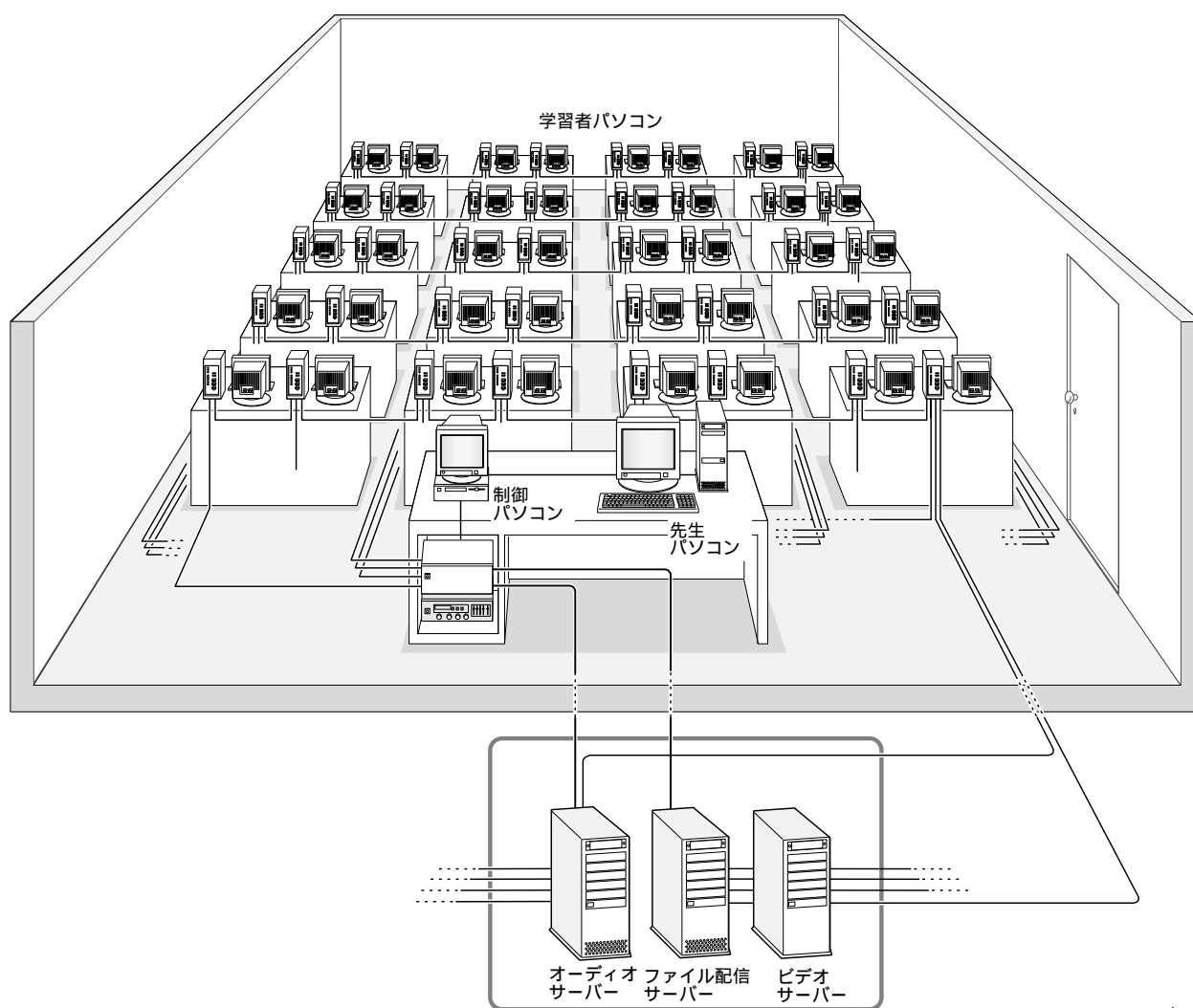
もくじ

商品概要	4
本書について	5
本書で使用している用語について	5
略称について	6
主な操作パネルの説明	7
ランチャーパネル	7
STRパネル	8
波形パネル	9

商品概要

本ソフトは、学内パソコン教室、LAN環境においてパソコンを最大限に活かした語学学習、情報リテラシーの学習をサポートするためのライブラリー学習者ソフトです。

DHCP接続を使用することで、異なるセグメントにある環境のパソコンや、IPアドレスを自動的に取得する設定のパソコンでも、ライブラリー学習を行うことができます。



(イメージ図)

本書について

本書はライブラリー学習者パソコンの操作説明書です。本システムではライブラリー学習を行う前に、運用のための設定や各パソコンへのシステムソフトのインストールなど、各種設定が必要になります。各種設定の操作方法については、別冊のライブラリー学習者ソフト取扱説明書をお読みください。

本書で使用している用語について

PRAC	: STRパネルの機能の1つで、Practiceの略です。教材に自分の音声を重ねて録音し、比較練習などを行えます。
PRL	: STRパネルの機能の1つで、Paragraph Repeat Listenの略です。教材の任意の区間を繰り返し再生します。
STRパネル	: Student Tape Recorderの略です。学習者パソコンで音声教材などの操作を行います。
WBT型教材	: 音声に静止画、テキスト、問題設定などを加えたWeb利用の教材です。オンデマンド開放で、Webブラウザを使って閲覧することができます。
Windowsログイン連動	: Windowsへのログインの際に入力されたユーザー名を使用して、ライブラリー学習にログインすることができます。
オーディオサーバー	: 音声教材、アナライザー教材などを登録しておくサーバーです。
音圧	: 声の強さ（大きさ）を表します。強い声は波形の振幅が大きく、弱い声は小さく表示されます。
学習者パソコン	: 学習者用のソフトがインストールされたパーソナルコンピュータです。学習者が使用します。
管理パソコン	: ライブラリー管理用のソフトがインストールされたパーソナルコンピュータです。
サーバー音声教材	: オンデマンド開放で使用できる音声教材です。
サーバー教材	: WBT型教材、サーバー音声教材の教材の総称です。
サラウンド	: ヘッドセットを装着していても、5.1chのサラウンド音響効果を得られる機能です。
スタンドアローン	: 管理パソコンと通信せずに、学習者ソフトを単独で使用することです。
スチューデントユニット	: 学習者用の音声入出力ユニットです。ヘッドセットの音量調節などを行います。
先生パソコン	: サーバー教材のプレビューを行ったり、学習履歴の閲覧を行います。先生が使用します。

ダウンロード	: サーバー教材を自分の学習者パソコンに取り込み、保存することです。本システムでは、サーバー教材を外部記録メディアを介してコピーすることも含んでいます。
波形パネル	: 教材や録音音声の波形を表示して学習できます。STRパネルから起動します。
ピッチ	: 声の高さを表します。高い声は波高が高く、低い声は波高が低く表示されます。
ビデオサーバー	: 動画ファイルを登録しておくサーバーです。
ファイル配信サーバー	: ファイルの配布や回収を行うサーバーです。 また、WBT型教材も登録します。
ライブラリーシステム	: サーバーに蓄積してある教材を使用して、学習者が自由に学習できるシステムです。
リアルタイムモード	: 自分の発声を録音すると同時に、波形表示する練習形態です。

略称について

本書では、米国Microsoft Corporationの各製品を下記のように表記しています。

- ・ Microsoft Windows XP Professional日本語版 : Windows XP
- ・ Microsoft Windows 2000 Professional日本語版 : Windows 2000

また、上記製品のうちいくつかに関して共通の説明を記載している箇所では、これらをまとめてWindowsと表記しています。

主な操作パネルの説明

ここでは、本ソフトの主な操作パネルのボタン名称やそのはたらきを説明します。操作方法の詳細は、各章をお読みください。

ランチャーパネル



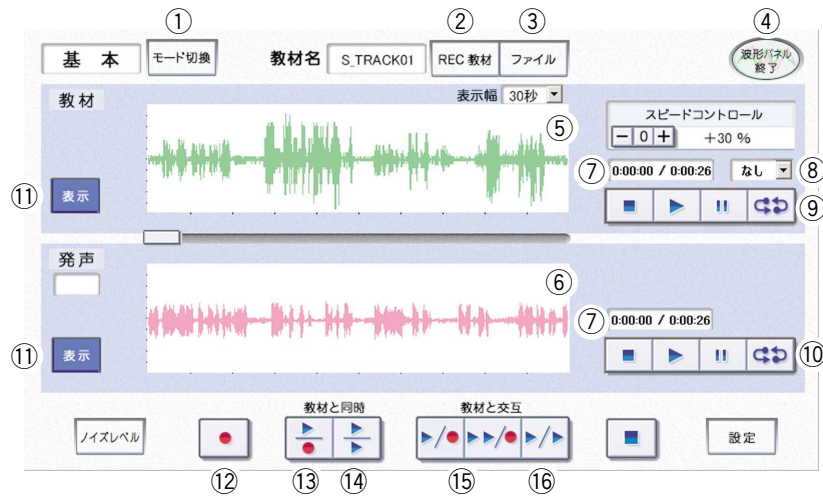
- ① 最小化ボタン：本ソフトを終了せずにWindowsデスクトップ画面を使うときにクリックします。
- ② [Windowsへ]：本ソフトを終了し、Windowsデスクトップ画面に移ります。授業中は使えません。
- ③ [OFF]：本ソフトを終了し、学習者パソコンの電源をOFFにします。授業中は使えません。
- ④ 状態表示部：先生からの命令で、パソコンの現在の状態が表示されます。
- ⑤ [STR]：STRパネルを開きます。音声教材を使うときに使用します。
- ⑥ [レポート]：レポートフォルダーを開きます。ファイルを使うときに使用します。
- ⑦ [マニュアル]：この操作マニュアルを開きます。
- ⑧ アプリケーション起動ボタン：使いたいソフトのボタンをクリックします。グレーボタンは使用できません。[前][次] ボタンでページをめくることができます。
- ⑨ フォルダーボタン：それぞれの中身を見たいときに使います。フロッピーディスクとCD-Rは、ディスクを挿入してからクリックしてください。
- ⑩ 日本語入力 [ON]：MS-IMEツールバーを表示します。
- ⑪ マイクボリュームコントロール：自分の声がヘッドセットからよく聞こえないときは右側に、大きすぎるときは左側に動かします。
- ⑫ フォーンボリュームコントロール：教材の音がヘッドセットからよく聞こえないときは右側に、大きすぎるときは左側に動かします。

STRパネル



- ① [教材選択] : オンデマンド学習やダウンロード教材を使うときにクリックします。
- ② [教材取込] : 教材や自分の声だけを録音するときにクリックします。
- ③ [-, 0, +] スピードコントロールボタン : 録音教材の再生スピードを変えます。速くするときは[+] 遅くするときは[-] 元のスピードにするときは[0] をクリックします。
- ④ [再生選択] : 再生する音声を「教材」「発声」「ミックス」から選びます。
- ⑤ [トラック選択] : 再生する音声のトラックを「STEREO」「L」「R」「MONO」から選びます。
- ⑥ [波形パネル] : 波形パネルを開きます。
- ⑦ 録音教材選択ボタン : 録音した教材を使うときにクリックします。
- ⑧ [PRAC] 録音教材に対して自分の声を重ねて録音します。
- ⑨ [PRL] : 録音教材の一部を繰り返し再生します。繰り返したい部分の最初と最後にクリックします。
- ⑩ [サラウンド] : 録音教材や送出教材を5.1chサラウンド効果で再生します。
- ⑪ [マイクOFF] : 教材録音の際、自分の声を録音したくないときにクリックします。

波形パネル



- ① [モード切換]：基本モードとリアルタイムモードの切り換えをします。
- ② [録音教材]：STRパネルで録音した教材を選択します。
- ③ [ファイル]：任意の音声ファイルを選択します。スタンドアローン時のみ表示されます。
- ④ [波形パネル終了]：波形パネルを終了します。
- ⑤ 教材波形表示欄：教材の波形を緑色で表示します。
- ⑥ 発声波形表示欄：自分の発声の波形をピンク色で表示します。
- ⑦ カウンター：教材または発声の再生時間 / 全体時間を表示します。
- ⑧ ポーズコントロール選択ボタン：教材とポーズの再生パターンを選びます。
- ⑨ 教材操作ボタン
- ⑩ 発声操作ボタン
- ⑪ [表示]：波形を表示したり消したりします。
- ⑫ 単独録音ボタン：教材との関連なしに、発声を録音します。
- ⑬ 教材と同時録音ボタン：教材を再生しながら発声を録音します。
- ⑭ 教材と同時再生ボタン：教材と録音した発声を同時に再生します。
- ⑮ 教材と交互録音ボタン：教材を再生した後、発声を録音します。教材1回再生と2回再生があります。
- ⑯ 教材と交互再生ボタン：教材を再生した後、録音した発声を再生します。



基本的な 操作方法


ここでは、起動のしかたやランチャーパネルの操作方法などについて説明します。

もくじ

起動する	11
状態表示について	14
学習者状態表示一覧（ランチャーパネルに表示）	14
ランチャーパネルの使いかた	15
STRパネルを表示する	15
レポートフォルダーを表示する	16
操作マニュアルを表示する	17
アプリケーションを起動する	18
PRAC音声/ファイル/学習履歴を提出する（ご参考） ...	19
フォルダーボタンの使いかた	25
日本語入力設定ツールバーを表示する	26
ボリュームを調節する	27
学習者ソフトを最小化する	28
Windows画面に移る	29
終了する	30
先生の操作によって終了する	30
OFFボタンを使用する	30

起動する

学習者パソコンは、他の全ての機器を起動してから、必ず最後に起動します。
先生からの指示で行ってください。

1. 学習者パソコンの電源を入れ、デスクトップ画面の [L3 Stage] アイコン  をダブルクリックします。または、Windowsの [スタート] メニューから「プログラム」「L3Stage」「ライブラリー学習者ソフト」を選択します。
学習者ソフトが起動すると、学習者パソコンに認証入力パネルが表示されます。

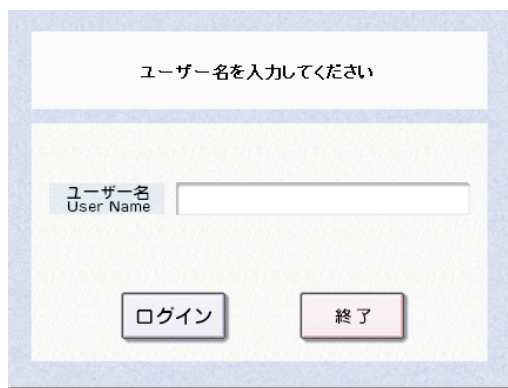


ユーザー名とパスワードを入力してください

ユーザー名
User Name

パスワード
Password

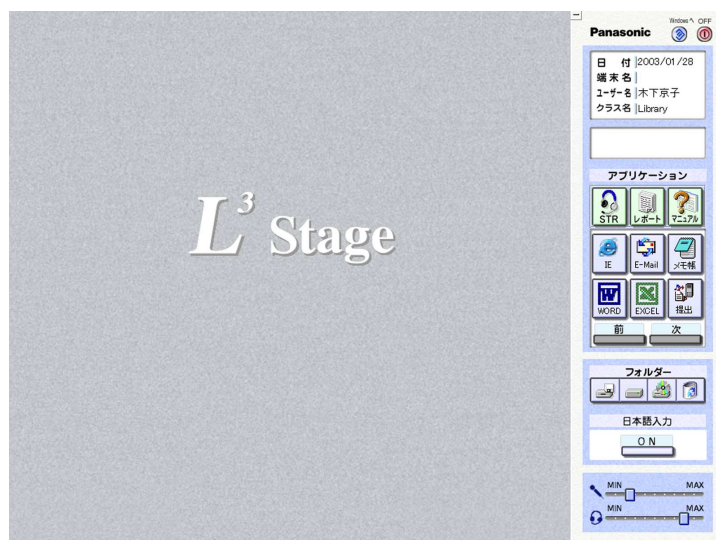
スタンドアローン時は下のパネルが表示されます。スタンドアローンの場合は、パスワードを入力する必要はありません。



ユーザー名を入力してください

ユーザー名
User Name

2. ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン] ボタンを押します。
ランチャーパネルが表示され、ライブラリー学習画面になります。

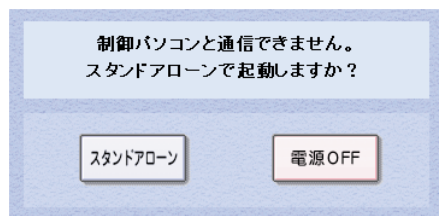


ㄨ 認証入力パネルについて ㄨ

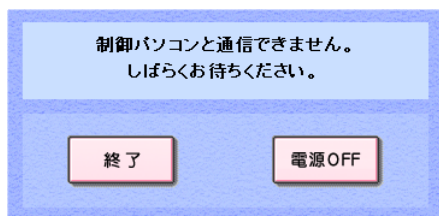
設定によっては、認証入力パネルは表示されずにライブラリー学習画面が表示されます。

ㄨ 管理パソコンが起動していない場合 ㄨ

スタンドアローン起動を許可する設定の場合、管理パソコン不在パネルが表示されます。管理パソコンが起動されると、自動的に認証入力パネルが表示されます。また、[スタンドアローン] ボタンを押すことで、管理パソコンが不在状態でも、学習者ソフトを使用して学習することができます。ただし、この場合ライブラリー学習に参加することはできず、一部の機能に関しては使用できないものがあります。パネルでは管理パソコンではなく、制御パソコンとなっています。



スタンドアローン起動が許可されていない場合、下記のパネルが表示されます。



＼ユーザー名またはパスワードを間違えると＼

ユーザー名またはパスワードを間違えると、次の画面が表示され、3回まで再入力できます。正しいユーザー名とパスワードを入力し直してください。

4回間違えると認証が拒否されます。先生からの指示を待ってください。

＼スタンドアローン起動の場合＼

スタンドアローン起動時にログインユーザー名を誤ると、学習履歴データが削除されますので、ご注意ください。

3. システムを終了させる場合はランチャーパネルの [Windowsへ] ボタン、パソコンごと終了させる場合は [OFF] ボタンを押して終了させてください。

＼ユーザーの切り替えについて＼

WindowsXPをご使用の場合、L3 Stageシステムを起動した状態でのユーザーの切り替えは行わないでください。機能に支障をきたす恐れがあります。

状態表示について

先生が行う管理パソコンの操作によって、学習者パソコンのランチャーパネルにそのときの状態説明が表示されます。

学習者状態表示一覧（ランチャーパネルに表示）



サーバー教材開放開始

: 開放された教材を自分で選択し、STRパネルを使用して学習できます。

ランチャーパネルの使いかた

ここでは、ランチャーパネルで行う機能の内容とその操作方法について説明します。

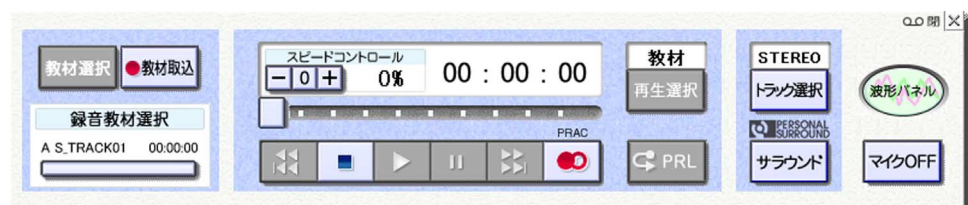
STRパネルを表示する

音声教材を使ったライブラリー学習に関する基本操作は、このSTRパネルで行います。ここではSTRパネルの表示のしかたについて説明します。STRパネルの詳細は「STRパネルの操作方法」(31ページ)をお読みください。

1. アプリケーションの [STR] ボタンをクリックします。



STRパネルが画面の下側に表示されます。音声教材に関する操作は主にこのSTRパネルで行います。



2. STRパネルを閉じるときは、[×] ボタン (閉じるボタン) をクリックします。



注意

教材が開放されると、STRパネルは、自動的に表示されます。

レポートフォルダーを表示する

レポートフォルダーは、レポート作成など、一時的な作業用に使用します。

1. アプリケーションの [レポート] ボタンをクリックします。



レポートフォルダーが表示されます。

2. レポートフォルダーを終了する場合は、Windowsエクスプローラの終了操作を行ってください。

操作マニュアルを表示する

本マニュアルを表示します。

注意

学習者パソコンに、Acrobat Readerがインストールされている必要があります。

1. アプリケーションの [マニュアル] ボタンをクリックします。



Acrobat Readerが起動し、本マニュアルが表示されます。

2. マニュアルを閉じるときは、Acrobat Readerを終了します。

アプリケーションを起動する

Windowsの各種アプリケーションを起動します。

1. 起動したいアプリケーションボタンをクリックします。



それぞれのアプリケーションが起動します。

2. アプリケーションを終了するとき、それぞれのアプリケーションで終了の操作をします。

＼起動したいアプリケーションのボタンが表示されていないときは、
[前] ボタンまたは [次] ボタンをクリックし、ページを切り換えます。

＼注意＼

ボタンが表示されていても、先生が使用を禁止しているアプリケーションは起動できません。

PRAC音声 / ファイル / 学習履歴を提出する (ご参考)

学習者パソコンに保存されたファイルやPRAC音声、スタンドアローン時の学習履歴を先生に提出することができます。

この機能は、ランチャーパネルのアプリケーションに「ファイル提出ソフト」が登録されている場合に使用できます。

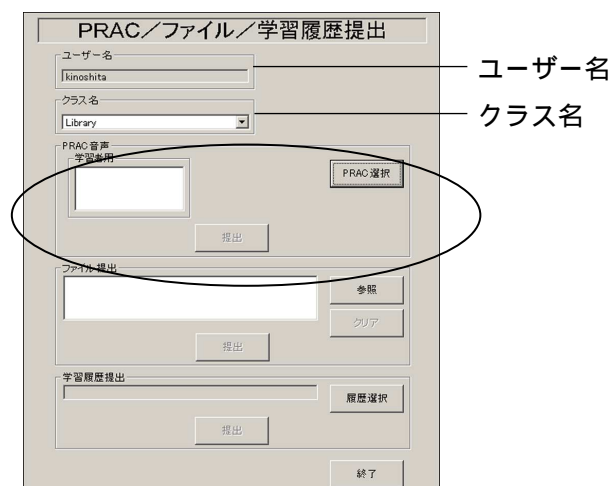
PRAC音声を提出する

PRAC音声とは、教材に重ねて録音した自分の声です。録音のしかたは、「録音教材に重ねて自分の声を録音し、比較学習する」(44ページ)をお読みください。

1. ランチャーのアプリケーションから「ファイル提出ソフト」が登録されているボタンをクリックします。



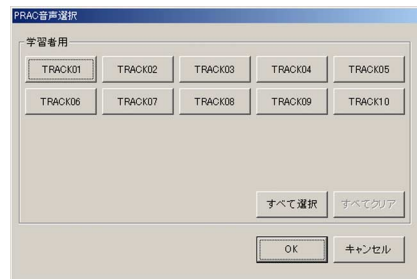
ファイル提出ソフトが起動します。



注意

クラス名には、先生が作成した提出用フォルダーが表示されます。「選択してください」と表示されている場合は、[] ボタンをクリックしてフォルダーを選択してください。

2. [PRAC選択] ボタンをクリックします。
PRAC音声選択パネルが表示されます。



3. 提出するTRACKを選択します。
PRAC音声録音されているTRACKは、選択可能表示されています。
 - 提出するTRACKを複数選択することができます。また、全てのTRACKを提出する場合は、[すべて選択] ボタンをクリックします。
4. 提出するTRACKを選択したら、[OK] ボタンをクリックします。

PRAC音声選択パネルが閉じて、ファイル提出ソフト画面に戻り、PRAC音声リストに選択したTRACKが表示されます。

5. [提出] ボタンをクリックします。

先生にPRAC音声提出されます。提出中は他の操作はできません。

6. 提出完了パネルが表示されます。



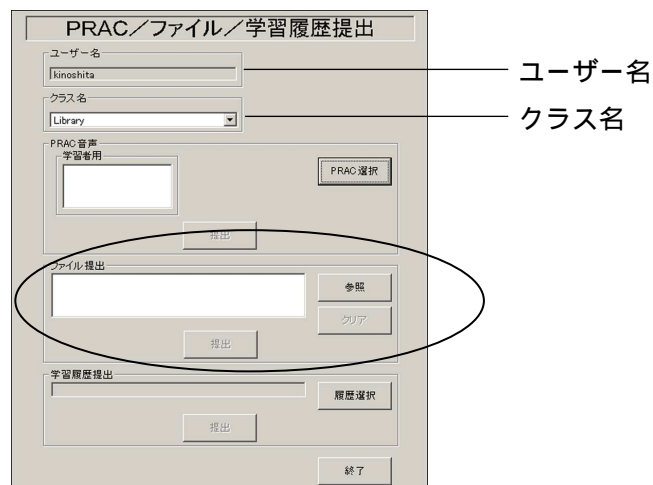
[OK] ボタンをクリックしてパネルを閉じます。

ファイルを提出する

1. ランチャーのアプリケーションから「ファイル提出ソフト」が登録されているボタンをクリックします。



ファイル提出ソフトが起動します。



注意

クラス名には、先生が作成した提出用フォルダーが表示されます。「選択してください」と表示されている場合は、[] ボタンをクリックしてフォルダーを選択してください。

2. [参照] ボタンをクリックして、提出するファイルを選択します。

ファイル提出リストに選択したファイルが表示されます。

3. [提出] ボタンをクリックします。

先生にファイルが提出されます。提出中は他の操作はできません。

4. 提出完了パネルが表示されます。



[OK] ボタンをクリックしてパネルを閉じます。

\\注意\\

- ファイル提出ソフトで一度に提出できるファイルは、20ファイルまでです。サイズは合計100 MBまでです。
学習者が一斉にファイルやPRAC音声の提出を始めると、ネットワークに負荷がかかり、ファイルやPRAC音声の提出に時間がかかる場合があります。
- 学習履歴はスタンドアローンで学習した場合に提出します。「学習履歴を提出する」(☞23ページ)をお読みください。

\\選択したファイルを取り消すには\\

提出するファイルとして、ファイル提出リストに表示されたファイルを取り消すには、リストからファイルを選択して、[クリア] ボタンをクリックします。

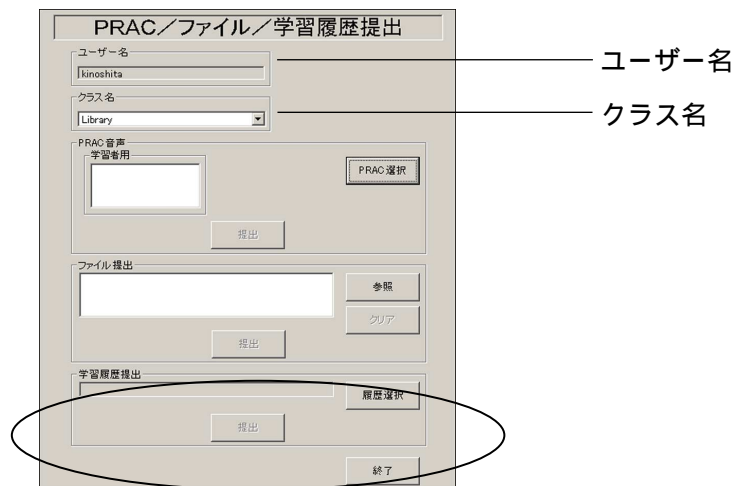
学習履歴を提出する

ここでは、スタンドアローンで学習した場合の学習履歴の提出方法を説明します。学習履歴は、自動的に学習者パソコンに保存されます。ライブラリー学習時の学習履歴は自動的に回収されます。

1. ランチャーパネルのアプリケーションから「ファイル提出ソフト」が登録されているボタンをクリックします。



ファイル提出ソフトが起動します。



＼注意＼

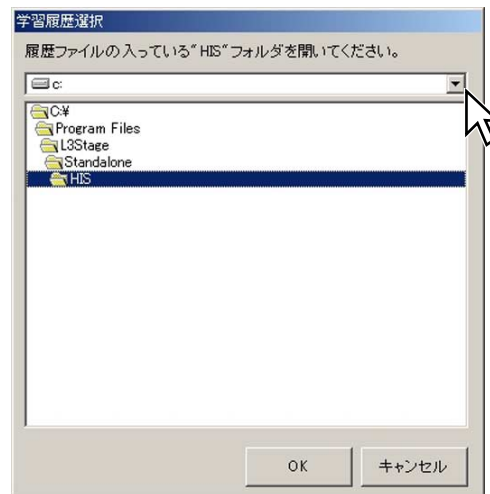
クラス名には、先生が作成した提出用フォルダーが表示されます。「 選択してください」と表示されている場合は、[] ボタンをクリックしてフォルダーを選択してください。

2. [履歴選択] ボタンをクリックします。

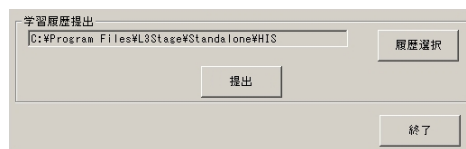
学習履歴選択パネルが表示されます。

学習履歴の保存先は先生に確認してください。フォルダー名は「HIS」です。

フロッピーディスクなどのメディアに入っている場合は、[] ボタンをクリックして、ドライブを選択してください。



3. 学習履歴の入っているHISフォルダーを開き、[OK] ボタンをクリックします。
ファイル提出ソフトの学習履歴参照先表示欄に表示されます。



4. [提出] ボタンをクリックします。
学習履歴が先生に提出されます。提出中は、他の操作はできません。
提出が完了すると、提出完了パネルが表示されます。



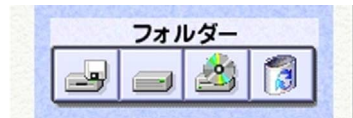
5. [OK] ボタンをクリックして閉じます。


＼注意＼

スタンドアローン時の学習履歴を提出する場合は、HISフォルダーごと外部記録メディアにコピーしてください。HISフォルダーの中のファイルをコピーするだけでは、ファイル提出ソフトを使って先生に提出することができません。


フォルダーボタンの使いかた

次の4つのフォルダーをボタン1つで表示することができます。



[フロッピーディスク] ボタン 


: クリックすると、フロッピーディスクドライブに保存されているファイルやフォルダーが表示されます。クリックする前にフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを入れてください。

[ハードディスク] ボタン 

: クリックすると、学習者パソコンの共有作業用に割り当てられているハードディスク内のファイルやフォルダーが表示されます。

[CD-ROM] ボタン 

: クリックすると、CD-ROMに保存されているファイルやフォルダーが表示されます。クリックする前にCD-ROMドライブにCD-ROMを入れてください。

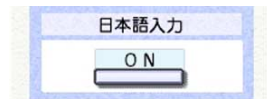
[ごみ箱] ボタン 

: クリックすると、ごみ箱に入っているファイルやフォルダーが表示されます。

日本語入力設定ツールバーを表示する

キーボードの日本語入力の設定を行うMS-IMEツールバーを表示します。

1. MS-IMEツールバーが表示されていないときは [ON] ボタンをクリックします。



画面右下にMS-IMEツールバーが表示されます。

・ Windows2000 (例)

・ WindowsXP (例)



＼注意＼

- ・ MS-IMEツールバーは、アプリケーションソフトの起動時に自動的に表示される場合もあります。また、MS-IMEツールバーをタスクバーに入れる設定にしている場合は、上記の操作では表示できないことがあります。
- ・ MS-IMEツールバーを移動するには、下図の ○ 部分をマウス左ボタンでドラッグしてください。

・ Windows2000 (例)

・ WindowsXP (例)



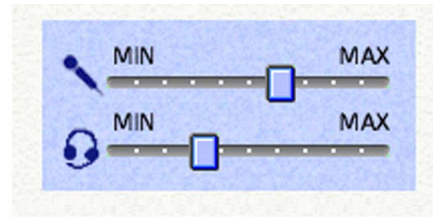
ボリュームを調節する

自分のヘッドセットのマイクとフォーンの音量を調節します。

1. つまみをドラッグして調節します。

上のスライダーでは、トークバックのマイクボリュームを調節できます。

下のスライダーでは、フォーンボリュームを調節できます。



学習者ソフトを最小化する

本ソフトを起動したまま、Windowsのデスクトップ画面に移ります。
先生側の設定によっては、この機能は使用できません。

1. ランチャーパネルの [最小化] ボタンをクリックします。



学習者ソフトが最小化され、Windowsのデスクトップ画面に移ります。
再度授業画面を表示するには、デスクトップ画面のタスクバーの [学習者ソフト] ボタンをクリックします。



＼注意＼

学習者ソフトを最小化したままで学習者パソコンを終了しないでください。

Windows画面に移る


本ソフトを終了し、Windowsのデスクトップ画面に移ります。

1. [Windowsへ] ボタンをクリックします。



本ソフトを終了し、Windowsのデスクトップ画面に移ります。

注意

- Windows画面から本ソフトを起動するには、デスクトップ画面の [L3 Stage] アイコン  をダブルクリックするか、またはWindowsの [スタート] メニューから「プログラム」 「L3Stage」 「ライブラリー学習者ソフト」を選択します。

終了する

本ソフトの終了方法は、設定によって、下記のように異なります。

先生の操作によって終了する

先生がライブラリー学習終了の操作を行うと、学習者パソコンは次のいずれかの状態になります。先生の指示に従って、終了操作を行ってください。

- 認証入力パネルが表示される [電源OFF] ボタンをクリックします。
- Windows画面に戻る Windows終了操作を行います。
- 電源OFFされる 何も操作しなくても、学習者パソコンの電源がOFFになります。

＼注意＼

パソコンの機種によって、Windowsの終了処理が通常よりも時間がかかる場合がありますが、故障ではありません。そのまましばらくお待ちください。

OFFボタンを使用する

学習者パソコンの電源を切る場合は、以下の方法で操作します。

1. [OFF] ボタンをクリックします。



本ソフトが終了し、学習者パソコンの電源がOFFになります。



第2章

STRパネルの 操作方法

ここでは、STRパネルを使って行う機能の操作方法について説明します。


もくじ

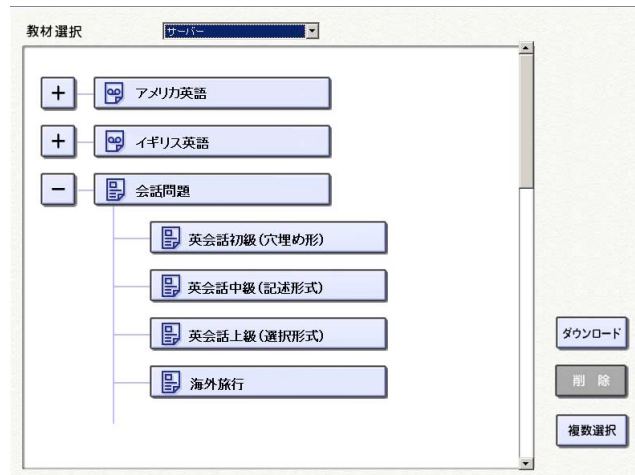
オンデマンド学習を行う	32
サーバー音声教材、アナライザー教材を選択し 再生する	32
サーバー音声教材、アナライザー教材を録音する	35
再生する録音教材を選択する	37
録音教材を再生する	38
録音教材を繰り返し再生する	40
教材の再生トラックを切り換える	42
教材をサラウンドで聞く	43
録音教材に重ねて自分の声を録音し、 比較学習する	44
教材をダウンロードする	46
ダウンロードした教材を使用する	48
WBT型教材を使用する	50
評価問題の操作のしかた	52
波形パネルを表示する	54

オンデマンド学習を行う


サーバー教材を使ってオンデマンド学習をします。サーバー音声教材を録音して、自分の声を重ねて録音したり、繰り返し再生したり、WBT型教材を使って問題演習などを行うことができます。

サーバー音声教材、アナライザー教材を選択し再生する

1. 先生から教材が開放されると、教材選択パネルが表示されます。
2. 教材を選択します。サーバー音声教材には  のアイコンが表示されます。



- 先生から開放された教材が表示されます。サーバー音声教材、アナライザー教材は、フォルダー－レッスン－センテンスで構成されています。

サーバー音声教材のアイコン  が表示されたフォルダーの左にある [+] ボタンをクリックすると、そのフォルダー内のレッスンが表示されます。レッスンを選択したい場合は、レッスンをクリックします。

- レッソンの左にある [+] ボタンをクリックすると、そのレッスン内のセンテンスが表示されます。センテンスを選択したい場合は、センテンスをクリックします。

＼複数のレッスン、センテンスを選択したいとき＼

教材選択パネルで [複数選択] ボタンをクリックしてから、教材を選択します。フォルダーを複数選択することはできません。

教材選択パネルを閉じるには

STRパネルの [教材選択] ボタンをクリックして、OFF状態にします。再度表示するには、もう一度 [教材選択] ボタンをクリックします。



注意

教材選択パネルが表示されている状態では、録音教材を再生することはできません。録音教材を再生する場合は、教材選択パネルを閉じてください。

3. [PLAY] ボタンをクリックします。



再生が開始します。

4. 再生を終了するときは [STOP] ボタンをクリックします。




再生が終了します。

一時停止、巻き戻し、早送りするには


各操作ボタンをクリックします。再生したい箇所を頭出ししたいときなどに使用します。

[REW / SKIP BACK] ボタン 

: 短く（1秒以内）押すと、同じ教材の先頭に戻ります。再生中に1秒以上押し続けると巻き戻しが開始され、ボタンをはなすと再生します。複数の教材を選択しているときは、1回押すたびに前のセンテンスの先頭にスキップします。

[STOP] ボタン 

: 再生、巻き戻し、早送りを停止します。

[PAUSE] ボタン 

: 再生を一時停止します。

[FF / SKIP FORWARD] ボタン 

: 再生中に1秒以上押し続けると早送りが開始され、ボタンをはなすと再生します。
複数の教材を選択しているときは、短く（1秒以内）1回押すたびに次のセンテンスの先頭にスキップします。

＼コメント付きサーバー音声教材、アナライザー教材を再生すると、
コメント付きサーバー音声教材、アナライザー教材を再生すると、STRパネルの上にコメントの内容が表示されます。コメントを表示したくないときは [コメント表示] ボタンをクリックします。



＼アナライザー教材を再生すると、

問題への回答時間が設定されているアナライザー教材を再生すると、回答時間の間は無音（ポーズ）となります。

[FF / SKIP FORWARD] ボタンをクリックすると、回答時間をスキップすることができます。オンデマンド学習では、アナライザー教材を再生しても回答パネルは表示されません。

サーバー音声教材、アナライザー教材を録音する

サーバー音声教材、アナライザー教材を選択し、録音して学習者パソコンに取り込みます。録音時には、再生も同時に行われます。


1. サーバー音声教材、アナライザー教材を選択し、STRパネルの[録音教材選択]ボタンをクリックします。



録音教材選択パネルが表示されます。

2. 録音に使用するTRACKを選択します。

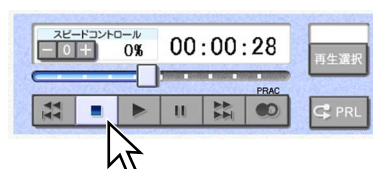


選択したTRACKが反転表示され、頭に録音先を示すマーク  が表示されます。

3. [教材取込]ボタンをクリックし、録音を開始します。



4. 録音を終了する場合は、[STOP]ボタンをクリックします。



録音が終了し、選択したTRACKに録音時間が表示されます。また、STRパネルの録音教材選択欄にも録音時間が表示されます。

＼すでに録音されたTRACKを録音先に指定したときは、
先に録音した内容は上書きされます。

＼録音した教材を削除するには、
録音したTRACK番号を選択して [削除] ボタンをクリックします。

再生する録音教材を選択する

録音した教材をリストから選択します。

1. 録音教材選択ボタンをクリックします。



録音教材選択パネルが表示されます。

2. 再生したい教材が録音されているTRACKをクリックします。



3. 選択したTRACKがSTRパネルの録音教材選択欄に表示されます。



ㄨ 録音教材選択パネルを閉じるには \

[閉じる] ボタンをクリックします。またはSTRパネルの録音教材選択ボタンをクリックしてOFF状態にします。



録音教材を再生する

録音した教材を再生します。

重要

- 再生の操作をする前に、再生したい教材を選択しておく必要があります。選択のしかたは「再生する録音教材を選択する」(37ページ)をお読みください。
- 教材選択パネルを表示したままでは、録音教材を再生することができません。STRパネルの[教材選択]ボタンをクリックして教材選択パネルを閉じてから、再生操作を行ってください。

- [PLAY] ボタンをクリックします。



再生が開始します。カウンターに再生時間が表示されます。

- 再生を終了するときは [STOP] ボタンをクリックします。




再生が終了します。


一時停止、巻き戻し、早送りするには、各操作ボタンをクリックします。再生したい個所を頭出ししたいときなどに使用します。

[REW / SKIP BACK] ボタン 

: 再生中に1秒以上押し続けると巻き戻しが開始され、ボタンをはなすと再生します。

[STOP] ボタン 

: 再生、巻き戻し、早送りを停止します。

[PAUSE] ボタン 

: 再生を一時停止します。

[FF / SKIP FORWARD] ボタン 

: 再生中に1秒以上押し続けると早送りが開始され、ボタンをはなすと再生します。

＼再生位置を指定するには＼

つまみを動かして再生位置を指定できます。つまみを動かすと連動して、カウンターの値も変化します。カウンターの値を確認しながら、つまみを動かして再生位置を指定することもできます。

＼再生スピードを変更するには＼

スピードは - 30 % ~ + 30 % の間で5 % 単位で設定します。0 % は教材オリジナルのスピードです。マイナス側に設定すると、再生スピードが遅くなり、プラス側に設定すると、再生スピードは速くなります。



[-] ボタン : クリックするたびに5 % ずつ減少します。

[0] ボタン : クリックすると、オリジナルのスピード (0 %) に戻ります。

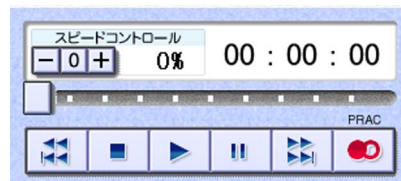
[+] ボタン : クリックするたびに5 % ずつ増加します。

録音教材を繰り返し再生する

教材の任意の区間を指定して、繰り返し再生します。

1. 繰り返して再生したい部分を頭出しします。

[PLAY] ボタンをクリックし、つまみを使って再生位置を指定するか、早送りします。



2. [PRL] ボタンをクリックします。



[PRL] ボタンが点滅表示します。繰り返して再生したい部分の先頭が指定されます。教材の再生は継続します。

3. 繰り返して再生したい部分の終わりにきたら、再度 [PRL] ボタンをクリックします。



[PRL] ボタンがONになります。繰り返して再生したい部分の終わりが指定され、繰り返して再生が自動的に開始されます。

4. 繰り返し再生を終了したいときは [PRL] ボタン、または [STOP] ボタンをクリックします。



[PRL] ボタンが元の表示に戻ります。繰り返し再生（再生）が終了します。

教材の再生トラックを切り換える

サーバー音声教材やアナライザー教材、録音教材やダウンロード教材を再生するときに、再生するトラックを選択します。

1. [トラック選択] ボタンをクリックします。



[トラック選択] ボタンをクリックするたびに、再生トラックがSTEREO L R MONOの順に切り換わります。

- STEREO : ステレオ再生します
- L : Lchの音声を両耳に再生します。
- R : Rchの音声を両耳に再生します。
- MONO : LchとRchの音声をミキシングして両耳に再生します。

注意

トラック選択は再生教材がステレオで録音されている場合のみ有効です。また、ステレオ録音された教材を先生がトラック選択して、L、R、モノラルで送出している場合、トラック選択欄の表示と異なる状態で聞こえることがあります。

教材をサラウンドで聞く

教材を再生するときに、サラウンド効果をかけることができます。ヘッドホンを使用しているとき特有の、頭の中に感じる圧迫感を軽減し、スピーカーから流れているような開放感のある音で聞くことができます。

1. [サラウンド] ボタンをクリックします。



教材を再生すると、サラウンドで聞くことができます。

2. サラウンドを終了するときは、再度 [サラウンド] ボタンをクリックします。

＼注意＼

WBT型教材の動画再生を行う場合、サラウンドで聞くことはできません。教材によっては、サラウンド効果をかけることが適さないものがあります。

- 例
- 左右の音声トラックを意図的に分けている教材（バイリンガル教材など）
 - スピードコントロールされた教材
 - 先生が片方のトラックだけを指定して送出した教材

録音教材に重ねて自分の声を録音し、比較学習する

録音教材に重ねて自分の声を録音します。英会話のレッスンなど、教材の音声と自分の音声を比較して学習するときなどに便利な機能です。

1. 録音教材を選択します（「再生する録音教材を選択する」(☞37ページ)をお読みください)。自分の声を重ねて録音したい部分を頭出しします。

[PLAY] ボタンをクリックし、つまみを使って再生位置を指定するか、早送りします。

2. [PRAC] ボタンをクリックします。



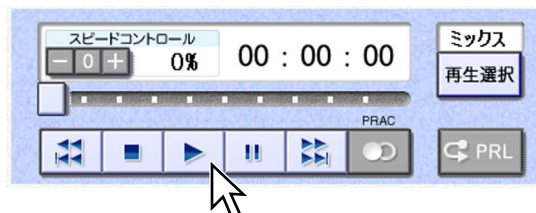
自分の声を録音できる状態になります。マイクに向かって話をします。

3. 録音を終了するには [STOP] ボタンをクリックします。



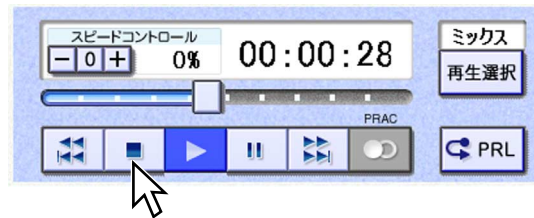
録音が終了し、[再生選択] ボタンの上の表示が「ミックス」となります。録音教材と自分の声の両方が再生できるようになります。

4. [PLAY] ボタンをクリックします。



教材の音声と自分の声が重なって再生されます。

5. 再生を終了するときは [STOP] ボタンをクリックします。



再生が終了します。

＼自分の声だけを録音するには＼

録音教材に重ねずに自分の声だけを録音するには、録音教材選択パネルの学習者用から教材が録音されていないTRACKを選択し、手順1～5の操作を行います。

＼再生する音声を切り換えるには＼

自分の声を重ねて録音したTRACKでも再生する音声を教材のみ / 自分の声のみ / 両方と切り換えることができます。[再生選択] ボタンをクリックすることにより、「教材 / 発声 / ミックス」と再生する音声切り換わります。録音されているのが教材のみ、自分の声のみの場合は、この切り換えはできません。

＼ご注意＼

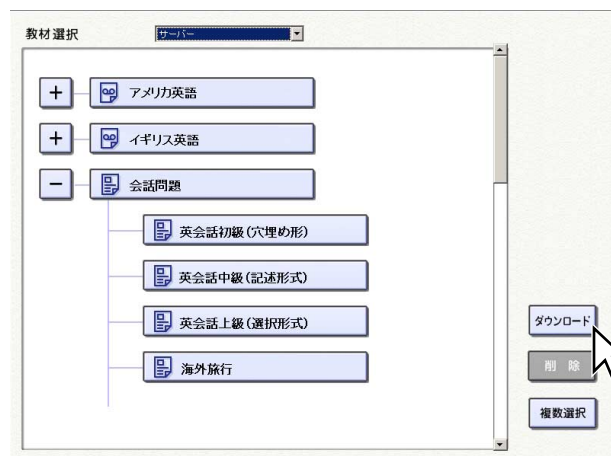
録音教材選択パネルで教材が録音されたTRACKを選択して [削除] ボタンをクリックすると、重ねて録音された音声があった場合は、教材と同時に削除されます。また、すでに録音されているTRACKを選んで [教材取込] ボタンをクリックし、新たな教材を録音した場合、教材は上書きされ、自分の声の録音も消えてしまいます。

教材をダウンロードする

サーバー教材のリストが表示されている時に、先生が許可していれば、教材をダウンロードすることができます。

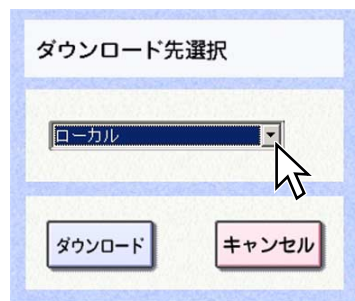
- ダウンロード先には、学習者パソコンのハードディスクの他、USBメモリなどの外部記憶メディアを指定することができます。ただし、CD-Rを指定した場合、直接CD-Rに書き込みを行うことはできません。一時的に学習者パソコンのハードディスクにダウンロードされますので、別途CD-R書き込みソフトを使用して、書き込み作業を行ってください。その際、学習者ソフトは終了しておいてください。
- ダウンロードした教材を再生するには、学習者ソフトが必要です。

1. 教材を選択し、教材選択パネルの[ダウンロード]ボタンをクリックします。外部記憶メディアから学習者パソコンにコピーする場合は、[]ボタンをクリックして、メニューから「リムーバル」を接続していないと、リストに表示されない場合があります。



2. ダウンロード先選択パネルが表示されますので、[]ボタンをクリックして、メニューからダウンロード先を選択します。

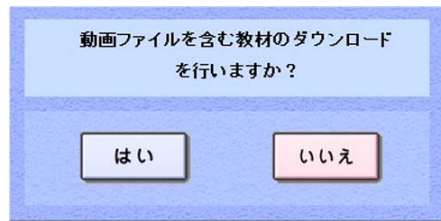
ダウンロード先が表示されます。



3. フロッピーディスクを選択する場合は、フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクを挿入し、[ダウンロード] ボタンをクリックします。

ダウンロードが開始されます。

選択した教材に動画ファイルが含まれる場合、その教材と一緒にダウンロードするか、確認パネルが表示されます。



4. [はい] または [いいえ] ボタンをクリックします [いいえ] ボタンをクリックすると、動画ファイルを含まない教材のみがダウンロードされます。

◇ダウンロード先にCD-Rを選択したときは◇

- ダウンロード先には、外部メディアとしてCD-Rを選択することができますが、この時点で直接CD-Rに書き込みを行うわけではありません。初期設定状態では、Windowsデスクトップ上の「Materials」フォルダーの中に一時的に保存しますので、改めてCD-R書き込みソフトを使用して、書き込みを行う必要があります。
- 「Materials」フォルダーには、「opt」フォルダーと「mfs」フォルダーが含まれます。これらのフォルダーやファイルは、絶対に手動で編集・削除・追加などを行わないでください。
- CD-Rへの書き込みを行う際は、学習者ソフトを終了してください。

◇注意◇

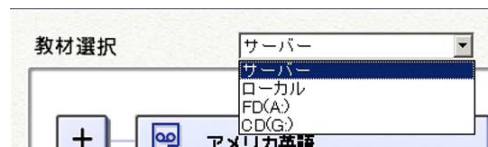
- 学習者が一斉に教材のダウンロードを始めると、ネットワークに負荷がかかり、ダウンロードに時間がかかる場合があります。
- 複数のハードディスクがあるパソコンをご使用の場合、異なるハードディスク間でのダウンロードはできません。

ダウンロードした教材を使用する

学習者パソコンのハードディスクや外部記録メディアにダウンロードした教材を使用して学習することができます。

ダウンロードした教材を選択する

1. 教材選択パネルの [] ボタンをクリックして、メニューからドライブを選択します。フロッピーディスクやCD-Rを選択する場合は、先に教材がダウンロードされているメディアをドライブに挿入してください。



2. ダウンロードした教材も、サーバー教材と同様に選択して、再生や録音を行うことができます。操作のしかたは、「サーバー音声教材、アナライザー教材を選択し再生する」(☞32ページ)、「サーバー音声教材、アナライザー教材を録音する」(☞35ページ)をお読みください。

＼注意＼

ダウンロード先にCD-Rを選択した場合、教材は一時的にWindowsデスクトップの「Materials」フォルダーに保存されますが、この教材は、教材選択パネルで表示することはできません。

＼スタンドアローン時には＼

学習者ソフトをスタンドアローンで使用している場合は、ダウンロード教材を使用して学習することができます。[教材選択] ボタンをクリックして、教材選択パネルを開き、再生や録音を行ってください。

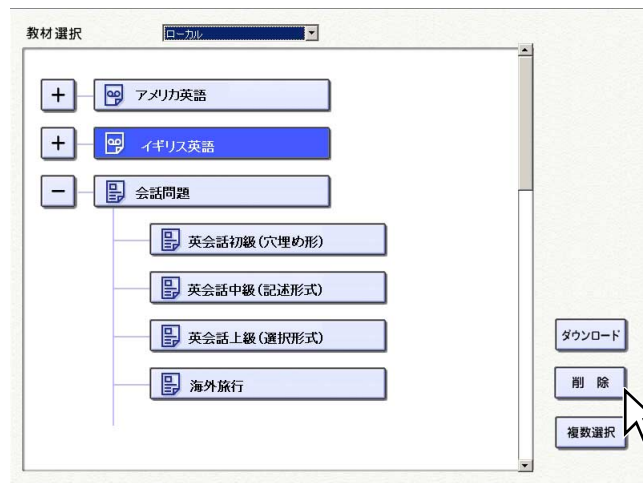
ダウンロード教材ではなく、サウンドカードのLine-Inに接続したAV機器の音声を使用することもできます。教材選択パネルを開かずに[教材取込] ボタンをクリックしてください。AV機器の音声を録音することができます。

録音したAV機器の音声を波形表示して学習するためには、Windowsのサウンドとマルチメディア設定の録音コントロールのライン入力レベルを調整する必要があります。

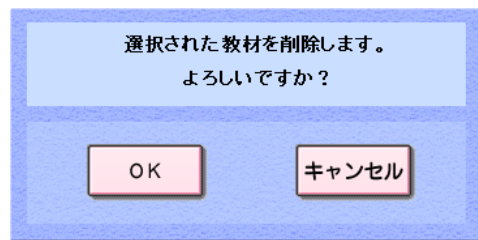
ダウンロードした教材を削除する

学習者のハードディスク（ローカル）やフロッピーディスクにダウンロードした教材は、削除することができます。

1. 教材選択パネルでローカルディスクかフロッピーディスクドライブを選択し、削除する教材を選びます。
2. [削除] ボタンをクリックします。



削除確認パネルが開きます。




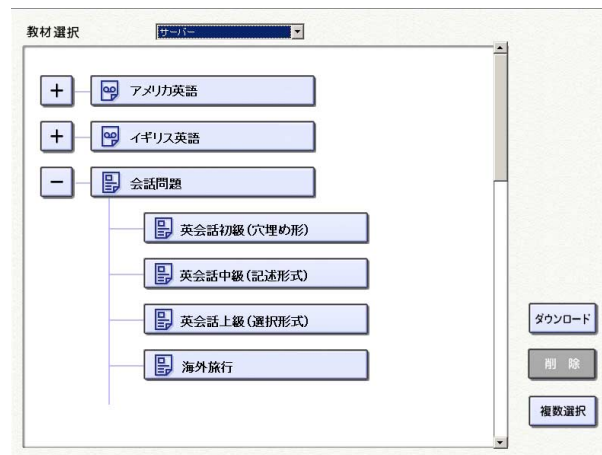
3. [OK] ボタンをクリックします。


注意

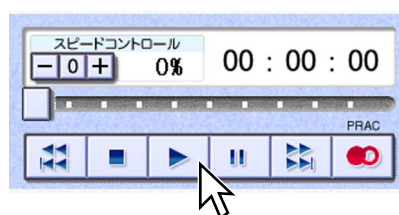
一度削除した教材は、ごみ箱フォルダーから復活させることはできません。削除する際は、十分ご確認ください。

WBT型教材を使用する

1. 先生から教材が開放されると、教材選択パネルが表示されます。
2. 教材を選択します。WBT型教材には、のアイコンが表示されます。

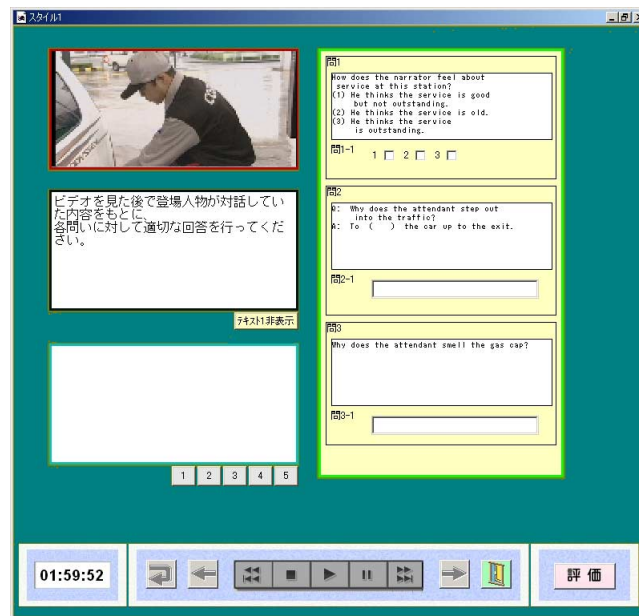



- WBT型教材は、のアイコンが表示されたフォルダーの左にある [+] ボタンをクリックすると一覧表示されます。サーバー音声教材やアナライザー教材のようなレッスンセンテンスの構造はありません。
 - WBT型教材は、複数選択することはできません。
3. [PLAY] ボタンをクリックして、再生します。



Internet Explorerが起動され、そのウィンドウに教材が表示されます。

4. 教材を操作します。

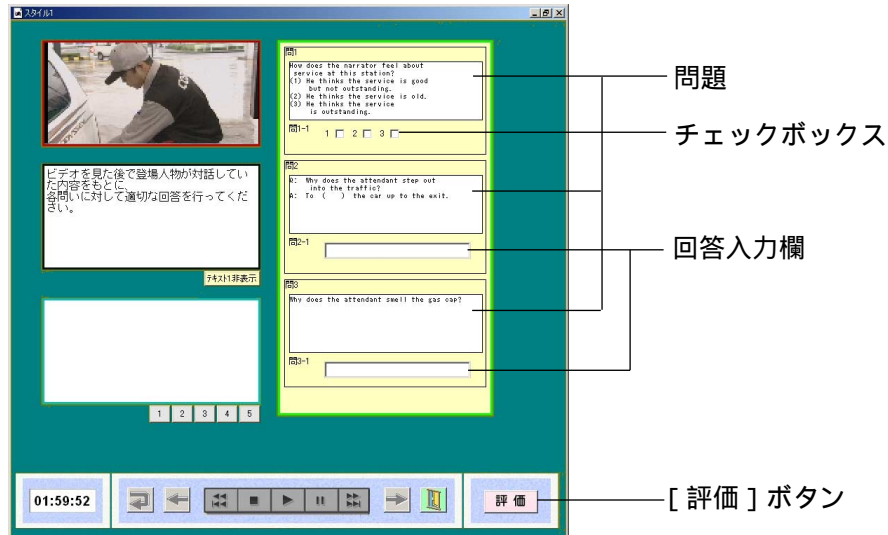


- 教材内に登録された音声を操作する時は、Internet Explorerのウィンドウ内に表示されたリモコンボタンを操作します。
- 教材の実行を終了する時は、リモコンボタンの右側にある終了ボタン  をクリックします。

WBT型教材では、音声のリモコンボタンの他に、テキストの表示をON / OFFしたり、静止画を切り換えるなどの機能があります。各ボタンの操作方法については、先生に確認してください。

評価問題の操作のしかた

WBT型教材に評価問題が設定されている場合、回答を行い [評価] ボタンを押すことで、回答、採点、評価が行われます。
評価結果は学習履歴に保存されます。



- 選択問題の回答方法 : チェックボックスにチェックを入れます。
- 穴埋め問題の回答方法 : 回答入力欄に回答を入力します。
- 記述問題の回答方法 : 回答入力欄に回答を入力します。記述問題では採点は行われません。

[評価] ボタン

: 回答完了後に押すと、評価結果が表示されます。

残り回答時間表示欄

: 回答制限時間が設定されている場合、制限時間の残り時間がカウントダウンされます。

① [評価] ボタンを押すと評価結果が表示されます。

英会話1-スタイル1							
氏名	ユーザー名	座席番号	ログイン日時				
末下京子	Kinoohita	A01	2003/4/1 22:00				
教材名	開始時間	終了時間	取得点数	総得点数	所要時間		
Service	2003/4/1 12:00:00	2003/4/1 12:30:00	20	20	0:30:00		
スタイル名	問題番号	回答	正解	得点	配点	平均所要時間	記述欄
スタイル1	Q1	1	1	1.0	1.0	0:00:5.4	
	Q2	evide	1	1.0	1.0	0:00:5.4	
	Q3	記述欄空欄		0	0	0:00:5.4	To make sure your order is correct.
	Q4						
	Q5						
	Q6						
	Q7						
	Q8						
	Q9						
	Q10						
Total				20	20	0:00:5.4	

解説

前期の授業内容からの出題です。
難しかった人は、教科書の助詞の説明を読み直してください。

完了 [キャンセル]

- ユーザー情報：学習者名、ユーザー名、座席番号、ログイン日時が表示されます。

- 総評：評価問題の全般的な情報が表示されます。

- 問題個別評価：問題ごとの評価情報が表示されます。

- 解説：先生からの解説・コメントが入力されている場合、表示されます。

② 評価結果と解説の確認が終わったら、[完了] ボタンを押して評価結果画面を終了します。

波形パネルを表示する

教材と自分の発声の録音音声を波形表示して学習することができます。ここでは、波形パネルの表示のしかたについて説明します。波形パネルの詳細は、「第3章 波形パネルの操作方法」(☞55 ページ)をお読みください。

1. [波形パネル] ボタンをクリックします。



波形パネルがSTRパネルの上に重ねて表示されます。STRパネルは操作できなくなります。



2. 波形パネルを閉じるときは、[波形パネル終了] ボタンをクリックします。

注意

- 波形パネルでは、STRパネルで使用していた音声教材を引き続き使用して学習しますが、教材の長さによっては、波形パネルを表示するのに時間がかかる場合があります。
- 波形パネルは、先生からの操作で教材が送出されたり、一斉録音が行われると、使用中でも閉じてしまいます。その場合、使用していた音声や波形のデータが破棄されてしまうことがあります。



第3章

波形パネルの 操作方法

ここでは、波形パネルを使って行う機能の操作方法について説明します。

もくじ

基本モードで学習する	56
教材波形を表示する	56
教材波形の範囲を指定する	58
教材を再生する	59
自分の発声波形を表示する（録音する）	61
自分の発声を再生する	63
教材と自分の発声を組み合わせて練習する	64
リアルタイムモードに移行する	66
リアルタイムモードで学習する	67
パラメーターを選択する	67
ピッチ波形を表示する	68
教材 / 自分の発声をそれぞれ再生する	70
自分の発声波形を再生する（録音する）	71
教材と自分の発声を組み合わせて練習する	71
教材波形を発声波形を比較表示する	72
目標レベルを設定する	73
基本モードに戻る	75
波形パネルを終了する	76
波形パネルを上手に使うために	77
波形の見かた	77
波形を扱うときの注意	78

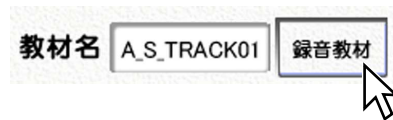
基本モードで学習する

ここでは、波形パネルの基本モードの操作方法を説明します。

教材波形を表示する

STRパネルで録音した教材の波形を表示します。録音教材はサーバー教材やダウンロード教材を録音した教材、自分の録音音声などです。

1. [録音教材] ボタンをクリックします。



録音教材選択パネルが表示されます。

2. TRACKを選択します。



選択したTRACKが反転表示されます。

3. [閉じる] ボタンをクリックします。

波形パネルの教材名表示欄に、選択したTRACKが表示され、教材波形表示欄に教材の音圧波形が緑色で表示されます。カウンターの上半分には、教材全体の時間が表示されます。

＼注意＼

長い録音教材を選択すると、波形を表示するのに時間がかかる場合があります。
[キャンセル] ボタンをクリックすると、波形表示を中止して元の状態に戻ります。

\\ スタンドアローン時には \\

スタンドアローン時には、任意の音声ファイルを選択できず [ファイル] ボタンが表示されます。クリックすると、マイコンピュータまたはデータディスクのドライブが表示されます。

音声ファイルが保存されているフォルダーを開き、使用するファイルを選択してください。



\\ 注意 \\

- 使用できる音声ファイルは、「サンプリング周波数：44.1 [kHz] 量子化ビット数：16ビット、ステレオ」のWAVファイル（またはMP3ファイル）です。
- ファイル名が長い場合は、教材名表示欄に表示できる部分のみの表示となります。

\\ STRパネルで録音教材を選択していた場合は \\

STRパネルでTRACKを選択した状態で、[波形パネル] ボタンをクリックして波形パネルを起動した場合は、そのまま選択しているTRACKの音声教材波形として表示されます。

\\ 表示幅を変更するには \\

波形表示欄の横幅の時間を変更することができます。10秒 / 20秒 / 30秒 / 60秒 / 90秒から選択します。

教材波形表示欄の上の [] ボタンをクリックして、表示される時間の中から選択します。表示幅を短くすると、波形が拡大表示されます。表示幅を長くすると、波形を全体的に見ることができますが、圧縮されて細部はわかりにくくなります。教材波形も発声波形も同じ幅になります。

\\ 波形を消したい場合は \\

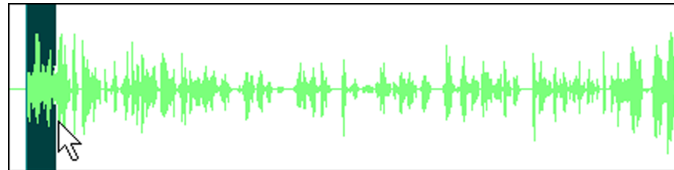
選択した教材の波形表示を消すことができます。教材波形表示欄の左にある [表示] ボタンをクリックしてOFF状態にします。波形表示を消しても教材の再生などは行えますが、範囲指定はできません。

範囲指定については、「教材波形の範囲を指定する」(58ページ)をお読みください。[表示] ボタンを再度クリックしてON状態にすると、波形を表示することができます。

教材波形の範囲を指定する

教材の一部を波形上で指定します。範囲指定した部分は、繰り返し再生したり、ポーズコントロールのセンテンスとすることができます。繰り返し再生、ポーズコントロールについては、「教材を再生する」(☞59ページ)をお読みください。

1. 教材波形表示欄で波形上の任意の位置から、マウスの左ボタンでドラッグします。



2. 任意の位置で、マウスの左ボタンを離します。

選択された範囲が反転表示されます(波形の色は変わりません)。

カーソル(縦線)は、指定範囲の先頭に表示されます。カウンターの右半分に指定した範囲の時間が表示されます。

3. 指定した範囲を解除するには、波形表示欄で反転表示されていない箇所を、マウスの左ボタンでクリックします。または指定した範囲の内外で、再度別の範囲を指定します。

\\メモ\\

教材波形で範囲指定すると、発声波形表示欄にも対応する範囲が指定されます。

教材を再生する

波形表示した教材を、単独で再生します。

1. 教材欄の [PLAY] ボタンをクリックします。



再生が開始します。


教材波形上で、再生位置にカーソルが表示されます。カウンターの左半分に再生時間が表示されます。表示幅の時間より教材時間が長い場合は、再生に伴って、波形がスクロールします。

2. 再生を終了するときは、教材欄の [STOP] ボタンをクリックします。




再生が終了します。波形表示位置は、そのまま保持されます。再度 [PLAY] ボタンをクリックすると、教材の先頭部分に戻り、再生を開始します。

＼一時停止、リピート再生するには、
各操作ボタンをクリックします。

[PAUSE] ボタン 

：再生を一時停止します。波形がスクロールしていた場合でも、表示箇所はそのまま維持されます。

[REPEAT] ボタン 

：教材を繰り返し再生します。範囲指定をしている場合は、その部分のみ繰り返し再生します。

＼再生位置を指定するには、

再生したい箇所の波形が表示されていない場合は、スライダーつまみを動かして探すことができます。一時停止状態で波形上の任意の位置をマウスの左ボタンでクリックすると、カーソルがその位置に移動し、その位置から再生が可能になります。

＼教材の再生スピードを変更するには、

教材の再生スピードは、- 30 % ~ + 30 %の間で、5 %単位で設定できます。操作のしかたは、「STRパネルの操作方法 録音教材を再生する」(38ページ)をお読みください。

＼範囲指定されていると＼

指定されている範囲の先頭から再生が始まります。リピート再生は、指定範囲のみが対象となります。また、カウンターの全体時間は、指定範囲の時間表示に変わります。

＼ポーズと組み合わせて再生するには＼

教材再生とポーズ（無音時間）を組み合わせて再生するポーズコントロールができます。範囲指定していると、その部分を再生センテンス（S）とすることができます。

- ① ポーズコントロール表示欄横の [] メニューボタンをクリックします。



ポーズコントロールの種類が表示されます。Sは再生センテンス、Pはポーズをあらわします。

- ② ポーズコントロールの種類を選択します。
- ③ [PLAY] ボタンをクリックすると再生が開始し、選択したポーズコントロールの種類によって、教材再生の間にポーズが挿入されます。その時の状態は、ポーズコントロール表示欄に赤で表示されます。

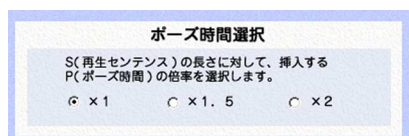
ポーズコントロールを設定した状態でリピート再生を行うと、ポーズ挿入も含めて繰り返し再生されます。

＼ポーズ時間を変更するには＼

挿入するポーズ時間は、センテンスの長さに対する倍率で設定します。

- ① 波形パネル右下の [設定] ボタンをクリックします。
設定パネルが表示されます。

- ② ポーズ時間設定で、倍率を選択します。



- ③ [OK] ボタンをクリックします。
設定パネルが閉じ、選択した倍率ポーズが挿入されるようになります。

自分の発声波形を表示する（録音する）

自分の発声を録音し、波形表示することができます。録音音声は、選択している教材のPRAC音声と同じ扱いになります。

＼メモ＼

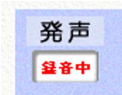
自分の発声の録音可能時間は、選択している教材の再生時間の1.2倍となります。

例 教材の長さが20秒の場合、24秒まで録音可能

1. 単独録音ボタンをクリックします。



録音が始まり、「録音中」と表示されます。



2. マイクに向かって発声します。
3. [STOP] ボタンをクリックします。



録音が停止し、発声波形表示欄に音圧波形がピンク色で表示されます。カウンターの右半分に録音時間が表示されます。

＼注意＼

- 単独録音ボタンをクリックすると、前に録音した音声と波形は破棄されます。
- 範囲設定していても、単独録音ボタンで録音した音声の波形は、発声波形表示欄の左端から表示されます。
- 単独録音では、教材のスピードコントロールの設定値に関わりなく、録音は実時間で行われます。
- 録音可能時間（教材再生時間の1.2倍）に達すると、メッセージパネルを表示し、録音を自動的に停止します。
- 全TRACKの合計録音時間は、ユーティリティ設定で決められているため、録音の途中で合計時間に達してしまった場合は、教材再生時間の1.2倍に達していなくても、メッセージパネルを表示して録音を終了します。

＼STRパネルでPRAC録音されている場合は＼

STRパネルでPRAC音声が存在するTRACKを選択した状態で、[波形パネル] ボタンをクリックして波形パネルを起動した場合は、そのまま選択しているTRACKのPRAC音声が発声波形として表示されます。

＼表示幅を変更するには＼

波形表示欄の横幅の時間を変更することができます。10秒 / 20秒 / 30秒 / 60秒 / 90秒から選択します。

教材波形表示欄の上の [] ボタンをクリックして、表示される時間の中から選択します。表示幅を短くすると、波形が拡大表示されます。表示幅を長くすると、波形を全体的に見ることができますが、圧縮されて細部はわかりにくくなります。教材波形も発声波形も同じ幅になります。

＼波形を消したい場合は＼

録音した音声の波形表示を消すことができます。発声波形表示欄の左にある [表示] ボタンをクリックしてOFF状態にします。波形表示を消しても発声の再生などは行えますが、範囲指定はできません。

範囲指定については、「自分の発声波形の範囲を指定するには」(下記)をお読みください。[表示] ボタンを再度クリックしてON状態にすると、波形を表示することができます。

＼発声波形の範囲を指定するには＼

発声波形の範囲指定は、教材の範囲指定と連動します。教材波形で範囲指定すると、発声波形の対応する範囲が同時に指定されます。教材とは異なる範囲を指定したい場合は、発声波形表示欄で任意の位置をマウスの左ボタンでドラッグし、範囲指定します。範囲指定すると、カウンターの右半分に指定した範囲の時間が表示されます。

自分の発声を再生する

波形表示した自分の発声を、単独で再生します。

1. 発声欄の [PLAY] ボタンをクリックします。



再生が開始します。


発声波形上で、再生位置にカーソルが表示されます。カウンターの上半分に再生時間が表示されます。表示幅の時間より教材時間が長い場合は、再生に伴って、波形がスクロールします。

2. 再生を終了するときには、発声欄の [STOP] ボタンをクリックします。




再生が終了します。波形表示位置は、そのまま保持されます。再度 [PLAY] ボタンをクリックすると、教材の先頭部分に戻り、再生を開始します。

＼一時停止、リピート再生するには、
各操作ボタンをクリックします。

[PAUSE] ボタン 

：再生を一時停止します。波形がスクロールしていた場合でも、表示箇所はそのまま維持されます。

[REPEAT] ボタン 

：教材を繰り返し再生します。範囲指定をしている場合は、その部分のみ繰り返し再生します。

＼再生位置を指定するには、

再生したい箇所の波形が表示されていない場合は、スライダーつまみを動かして探すことができます。一時停止状態で波形上の任意の位置をマウスの左ボタンでクリックすると、カーソルがその位置に移動し、その位置から再生が可能になります。

＼範囲指定されていると、

指定されている範囲の先頭から再生が始まります。リピート再生は、指定範囲のみが対象となります。


＼注意、

- ・単独録音した音声にスピードコントロールを設定することはできません。
- ・発声には、ポーズコントロールを設定することはできません。


教材と自分の発声を組み合わせて練習する

波形パネルでは、教材再生と自分の発声の録音、または教材再生と自分の発声の方法を選んで練習できます。




教材と同時録音ボタン 

：クリックすると、教材の再生と同時に、録音が始まります。教材を聞きながら、同じフレーズを発声する練習に適しています。

教材と同時再生ボタン 


：クリックすると、教材の再生と発声の再生が同時に開始されます。

教材と交互録音（1回再生）ボタン 


：クリックすると、教材の再生が開始され、教材再生が終了すると自動的に発声の録音が始まります。教材とおなじフレーズでも、違うフレーズでも、教材を聞き終わってから自分のペースで発声することができます。

教材と交互録音（2回再生）ボタン 

：クリックすると、教材の再生が開始され、2回繰り返して教材再生が終了すると、自動的に発声の録音が始まります。教材をよく聞いてから発声することができます。

教材と交互再生ボタン 

：クリックすると、教材の再生が開始され、教材再生が終了すると自動的に発声の再生が開始されます。

STOPボタン 

：クリックすると、すべての再生 / 録音動作を停止します。教材単独再生や発声単独再生、単独録音も停止されます。


＼範囲指定されていると＼

- 再生は、指定範囲のみとなります。教材と発声で異なる範囲を指定されている場合は、それぞれの範囲を再生します。
- 発声波形は、指定範囲の先頭から表示されます。教材と発声で異なる範囲を指定していても、ここで録音すると、教材の指定範囲に対応する位置から、発声波形が表示されます。

ㄨ注意ㄨ

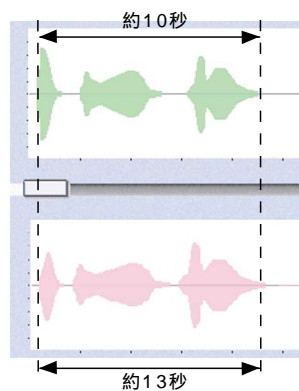
- [STOP] ボタンと単独録音ボタン以外は、教材が選択されていない場合や、自分の発声を録音していない場合は、使用できません。
- ポーズコントロールが設定されていても、無効となります。
- 録音が含まれるボタンをクリックすると、前の録音音声と波形は破棄されます。
- 録音可能時間（教材再生時間の1.2倍）に達すると、メッセージパネルを表示し、録音を自動的に停止します。
- 全TRACKの合計録音可能時間は、ユーティリティ設定で決められているため、録音の途中で合計時間に達してしまった場合は、教材再生時間の1.2倍に達していても、メッセージパネルを表示して、録音を停止します。

ㄨ教材の再生速度を変更して自分の発声を録音するとㄨ

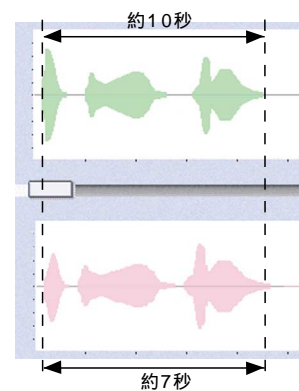
教材の再生速度を変更して、 や  を使用すると、教材の再生時間に合わせて時間を圧縮したり、伸長した発声波形を表示します。

これらの発声を「教材と同時再生」すると、カーソルは教材と同じスピードで動きます。

例 10秒の教材を - 30 %で再生しながら同時録音した場合



例 10秒の教材を + 30 %で再生しながら同時録音した場合



リアルタイムモードに移行する

基本モードからリアルタイムモードに移ります。リアルタイムモードでは、あらかじめ基本モードの教材波形表示欄で範囲指定した時間の1.2倍が表示幅となります。

1. 教材波形表示欄で発声練習したい部分を範囲指定します（範囲指定のしかたは、「教材波形の範囲を指定する」(☞58ページ)をお読みください)。
2. 録音や再生を行っていない状態で、[モード切換] ボタンをクリックします。

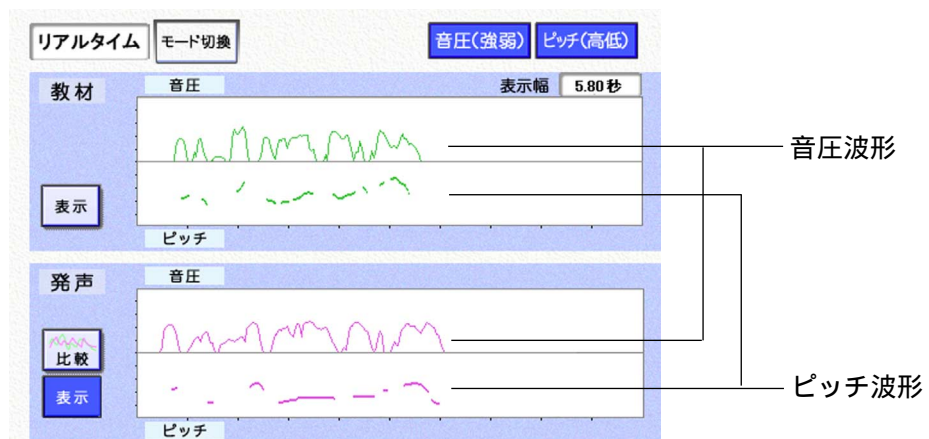


リアルタイムモードに切り換わります。

基本モードで指定した範囲の教材波形が、教材波形表示欄に拡大表示されます。発声波形が表示されていた場合は、対応する範囲の発声波形も、発声波形表示欄に拡大表示されます。

メモ

リアルタイムモードでは、音圧（強弱）波形とピッチ（高低）波形を表示できます。また、リアルタイムモードの音圧波形は基本モードの音圧波形と形状が異なります（「波形の見かた」(☞77ページ)）。



注意

- スピードコントロール値の設定は、リアルタイムモードでも継続します。
- 教材波形や発声波形で、範囲指定をせずにリアルタイムモードに切り換えた場合は、波形表示欄の表示幅は両方とも10秒となります。
- 教材波形の指定範囲と発声波形の指定範囲が異なる状態で、リアルタイムモードに切り換えた場合は、教材波形の指定範囲が継承され、表示幅は教材の指定範囲の1.2倍となります。このとき発声波形表示欄は空欄となります。

リアルタイムモードで学習する

リアルタイムモードでは、発声した音声が入耳と同時に波形として表示されるため、耳と目で自分の発声を確認でき、教材との違いなどを感覚的につかむ助けとなります。

機能には、基本モードと同様のものと異なるものがあります。ここでは、主に基本モードと異なる機能について説明します。基本モードと同様の機能については、「基本モードで学習する」(56ページ)をお読みください。

パラメーターを選択する

リアルタイムモードでは、表示する波形の種類(パラメーター)を「音圧(強弱)」「ピッチ(高低)」から選択できます。デフォルトは両方とも表示するようになっています。

1. 表示したいパラメーターのボタンをON状態に、表示しないものはOFF状態にします。ON状態のボタンをクリックすると、OFF状態にすることができます。



選択したパラメーターによって、波形が再表示されます。

注意

表示幅が長いと、波形表示に時間がかかる場合があります。

メモ

- パラメーターを音圧波形のみ、またはピッチ波形のみに設定すると、波形表示欄全体に波形が表示され、変化がわかりやすくなります。
- パラメーターを両方とも非表示にすることはできません。波形を消したい場合は、波形表示欄左の「表示」ボタンをクリックして、OFF状態にしてください。
- 基本モードと同様、教材波形は緑色、発声波形はピンク色で表示されます。

ピッチ波形を表示する

リアルタイムモードでは、基本モードにはない「ピッチ（高低）」波形を表示することができます。基本モードで範囲指定して、リアルタイムモードに移行すると、デフォルトで音圧波形とピッチ波形が表示されますが、ピッチ波形をきれいに表示するには、いくつかの設定があります。

教材の声に合わせてピッチ波形の表示帯域を変える

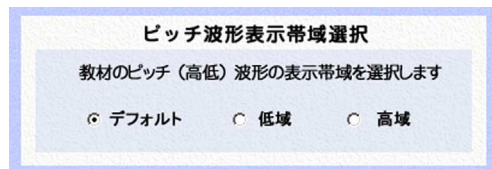
教材の声が低くて、波形表示欄の下の方にピッチ波形が表示され、波形の変化がわかりにくいときや、縦軸を拡大して表示したい場合は、表示する周波数帯域を変更することができます。

1. [設定] ボタンをクリックします。



設定パネルが表示されます。

2. 「ピッチ波形表示帯域選択」で、波形表示欄の表示帯域を選択します。



デフォルトは、0 [Hz] ~ 500 [Hz] となっています。低域を選択すると、縦軸が50 [Hz] ~ 300 [Hz]、高域を選択すると、縦軸が150 [Hz] ~ 500 [Hz] となります。

3. [OK] ボタンをクリックします。

設定パネルが閉じ、波形パネルに戻ります。教材欄と発声欄の波形表示領域が、選択した周波数帯域の表示に変わります。

メモ

発声欄の縦軸も、設定パネルで選択した教材欄の表示帯域と同じになります。その場合、教材と学習者の声の帯域が異なっても、学習者の発声は教材の帯域に合わせてピッチを変換して表示されるため、実際のピッチとは異なります。

周囲雑音などを除去してピッチ波形を表示する

発声以外の周囲雑音からもピッチ波形が表示されてしまい、わかりにくくなる場合があります。その場合は、周囲雑音と発声を切り分ける必要があります。リアルタイムモードで、周囲雑音のレベル（ノイズレベル）を設定します。

＼発声の周囲雑音の見分けかた＼

- ① 単独録音ボタンをクリックし、何も発声せずに数秒間録音します。
- ② [STOP] をクリックします。

発声欄に波形が表示されます。基線付近に表示されている波形が周囲雑音です。周囲雑音の他に、モニターやパソコンからの誘導電流による波形が表示されることもあります。

＼教材の周囲雑音の見分けかた＼

- ① 選択している教材を再生します。
- ② 教材を聞きながら音圧波形をなぞり、発声の波形の箇所と周囲雑音の波形の箇所を区別します。周囲雑音の箇所を覚えておきます。

＼ノイズレベルの設定方法＼

- ① 上記の方法で、周囲雑音の音圧波形を発声波形から区別します。
- ② [ノイズレベル] ボタンをクリックします。



教材欄と発声欄の両方に、ノイズレベル設定バーとノイズレベル線（黄色の水平線）が表示されます。このノイズレベル線から基線（音圧が0の線）の間の音声は、ピッチ波形では無音として扱われます。



- ③ ノイズレベル設定バーのスライドつまみをマウスの左ボタンでドラッグし、ノイズレベル線を周囲雑音波形の上に設定します。ノイズレベル設定バー上の任意の位置をクリックすると、その高さにスライドつまみとノイズレベル線が移動します。設定バーの両端の [+] / [-] ボタンでノイズレベル線の微調整ができます。[+] ボタンをクリックすると、ノイズレベル線が1ドットずつ上がります。[-] ボタンをクリックすると、ノイズレベル線が1ドットずつ下がります。
- ④ [ノイズレベル] ボタンを再度クリックします。
ノイズレベル設定バーとノイズレベル線が消去されます。教材は、基本モードからリアルタイムモードに移行したり、パラメーターを選択し直したりして波形を再表示させると、設定したノイズレベル以下の音声のピッチ波形が表示されなくなります。発声は次の録音から、設定したノイズレベル以下の音声のピッチ波形が表示されなくなります。

注意

- ノイズレベルを高く設定すると、教材や発声の必要な部分のピッチ波形まで表示されなくなるため、周囲雑音をわずかに超える程度に設定することをおすすめします。
- 教材によっては臨場感を出すために周囲雑音が多く録音され、会話部分のレベルと差がないものがありますが、このような教材ではピッチ波形を正しく表示できません。

教材 / 自分の発声をそれぞれ再生する

リアルタイムモードでも、教材または自分の録音した発声を、それぞれ単独で再生することができます。リアルタイムモードでは、表示幅が固定されるため、波形のスクロールやスライダーはありません。それ以外の操作方法については、「基本モードで学習する」(56ページ) をお読みください。

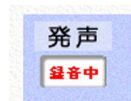
自分の発声波形を表示する（録音する）

リアルタイムモードでは、録音ボタンをクリックすると、すぐに波形が表示され始めます。録音可能時間は波形表示欄の表示幅となり、表示幅の最後まで達すると自動的に録音が停止します。

1. 単独録音ボタンをクリックします。



録音が開始され、「録音中」と表示されます。



2. マイクに向かって発声します。

発声波形表示欄に波形がピンク色で表示されます。

3. 表示幅の時間に達すると、自動的に録音と波形表示が終了します。途中で録音を終了する場合は、[STOP]ボタンをクリックします。



注意

- 単独録音ボタンをクリックすると、前に録音した音声と波形は破棄されます。
- 範囲設定していても、単独録音ボタンで録音した音声の波形は、発声波形表示欄の左端から表示されます。
- 単独録音では、教材のスピードコントロールの設定値に関わりなく、録音は実時間で行われます。
- 全TRACKの合計録音時間は、ユーティリティ設定で決められているため、録音の途中で合計時間に達してしまった場合は、教材再生時間の1.2倍に達していなくても、メッセージパネルを表示して録音を終了します。

教材と自分の発声を組み合わせて練習する

リアルタイムモードでも、教材再生と自分の発声の録音、または教材再生と自分の発声の再生方法を選んで練習できます。操作方法は「基本モードで学習する」(56ページ)をお読みください。

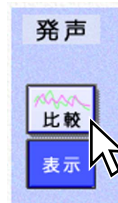
教材波形と発声波形を比較表示する

教材と同じフレーズを発声して練習する場合、教材欄の波形を発声欄に重ねて表示し、波形の違いを比較しやすくなります。

＼注意＼

- [比較] ボタンは、教材波形が表示されているときのみ使用できます。
- 発声開始のタイミングが教材とずれたり、教材の再生スピードよりも速くまたは遅く話した場合は、比較表示しても時間が合わないため、違いを正しくみることができません。

1. 発声欄の [比較] ボタンをクリックします。



発声波形表示欄に教材波形が表示されます。

すでに発声を録音して、発声波形が表示されている場合は、教材波形が緑色、発声波形がピンク色で表示されるため、違いを比較することができます。



2. 録音ボタンをクリックして、発声します。

発声波形表示欄の教材波形をなぞるように発声し、教材教材に近づけるように練習することができます。

＼教材波形と発声波形の時間の合わせかた＼



- 発声開始のタイミングを合わせる

教材波形であらかじめ範囲指定をしておきます。その際、練習するフレーズの前に1秒程度の無音時間を入れておくことをおすすめします。

 や  をクリックして教材の再生を聞き、教材に似せて発声します。

- 発声のスピードを合わせる

スピードコントロールで教材の再生スピードを自分の発声のスピードに合わせます。

 や  をクリックして教材の再生を聞き、教材に似せて発声します。

＼注意＼

波形は、音声の物理的な現象を忠実に再現しているため、同一の発声者が同じように発声しているつもりでも毎回若干異なる波形が表示され、しかもこれらの差異は聴感上はほとんどわからない場合もあります。発声者が異なる場合には、その差異がより大きくなります。そのため、練習の際は、波形を厳密に比較して全く同じ表示を得ることに重点をおくのではなく、アクセントやストレスの位置、イントネーションの高低差など、概要に着目して練習してください。

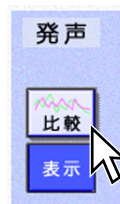
目標レベルを設定する

波形を厳密に比較するのではなく、強弱の程度、高低差などに着目して練習することができます。目標レベルは、最大2つまで設定できます。

＼注意＼

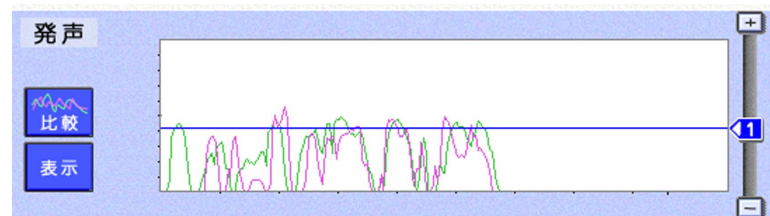
目標レベルは、「音圧（強弱）」または「ピッチ（高低）」のどちらか一方の波形を表示しているときに設定できます。

1. 発声欄の [比較] ボタンをクリックします。



発声波形表示欄に教材波形が表示されます。

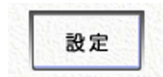
発声波形表示欄の右に目標レベル設定バーと目標レベル線（青色の水平線）が表示されます。



2. 目標レベル設定バーのスライドつまみをマウスの左ボタンでドラッグし、目標レベル線を設定します。教材波形や発声波形の頂点の高さに設定して、音圧波形の場合は、そのレベルを超えるようにストレスをつけて発声したり、ピッチ波形の場合は、そのレベルを超えるようにイントネーションをつけて発声したりします。目標レベル設定バー上の任意の位置をクリックすると、その高さにスライドつまみと目標レベル線が移動します。設定バーの両端の [+] / [-] ボタンで目標レベル線の微調整ができます。[+] ボタンをクリックすると、目標レベル線が1ドットずつ上がります。[-] ボタンをクリックすると、目標レベル線が1ドットずつ下がります。
3. 録音ボタンをクリックして、目標レベルを参照しながら発声します。

＼目標レベルの表示を変更する＼

- ① [設定] ボタンをクリックします。



設定パネルが表示されます。

- ② 目標レベル設定バーをいつ使用するか選択します。また、目標レベルをいくつ使用するかも選択します。

目標レベル設定	
目標レベル設定バー	目標レベルの数
<input checked="" type="radio"/> 比較表示のときに使用する	<input checked="" type="radio"/> 1つ
<input type="radio"/> 常に使用する	<input type="radio"/> 2つ
<input type="radio"/> 使用しない	

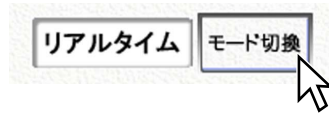
- ③ [OK] ボタンをクリックします。

設定パネルが閉じ、選択した内容に従って、目標レベル設定バーと目標レベル線が表示されます。

基本モードに戻る

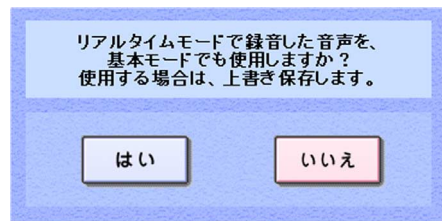
リアルタイムモードでの学習を終了し、基本モードに戻ります。

1. 録音や再生を行っていない状態で、[モード切換] ボタンをクリックします。



リアルタイムモードで録音を行った場合は、発声保存確認パネルが表示されます。

2. リアルタイムモードの発声波形と録音音声を保存するかどうかを選択します。



[はい] ボタン

: リアルタイムモードの発声波形と録音音声、基本モードでも使用できます。
基本モードの発声波形と録音音声は上書きされます。

[いいえ] ボタン

: リアルタイムモードの発声波形と録音音声は破棄されます。
リアルタイムモードに移行する前の基本モードの状態に戻ります。
基本モードに戻ります。

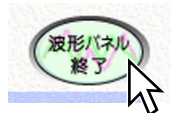
＼注意＼

- スピードコントロールの設定は、基本モードでも継続します。
- 指定した範囲はクリアされ、リアルタイムモードに移行する前の状態に戻ります。

波形パネルを終了する

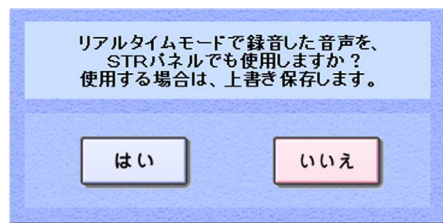
基本モードまたはリアルタイムモードから波形パネルを終了し、STRパネルに戻ります。

1. 録音や再生を行っていない状態で、[波形パネル終了] ボタンをクリックします。



リアルタイムモードで録音を行った場合は、発声保存確認パネルが表示されます。

2. リアルタイムモードの発声波形と録音音声を保存するかどうかを選択します。



[はい] ボタン

: リアルタイムモードの録音音声が、STRパネルでも使用できます。
基本モードやSTRパネルで録音したPRAC音声は上書きされます。

[いいえ] ボタン

: リアルタイムモードの録音音声は破棄されます。
波形パネルが閉じ、STRパネルに戻ります。

◁ 注意 ▷

- 基本モードで録音した音声は、その都度選択した教材のTRACKに、PRAC音声として上書き保存されています。
- スピードコントロールの設定は、STRパネルでも継続します。

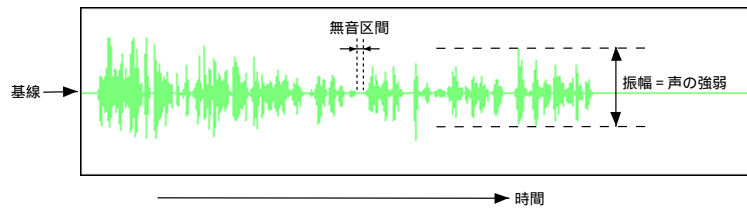
波形パネルを上手に使うために

ここでは、教材や自分の発声を波形表示して学習する際に、知っておくと便利な内容を説明します。波形の見かたや扱いかたを覚えて、上手に学習に利用してください。

波形の見かた

基本モードで表示されるのは、音圧（声の強弱）の波形です。

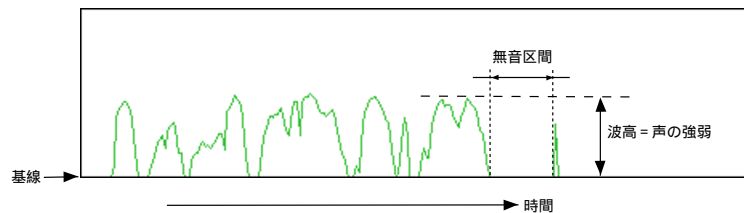
基本モードの音圧波形例



音圧波形では、大きい声（強い声）は、振幅の大きな波形となります。また、小さい声（弱い声）は、振幅の小さな波形となります。

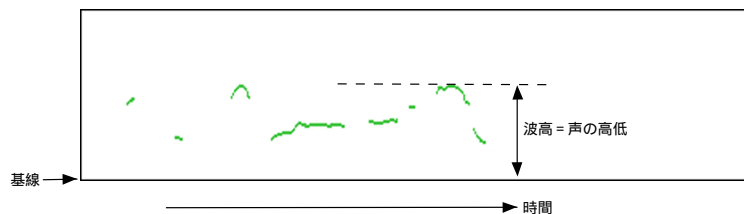
リアルタイムモードで表示されるのは、音圧波形とピッチ（声の高低）の波形です。リアルタイムモードでは、基本モードで表示した音圧波形を、形を変えて表示しています。これは、教材波形と重ね合わせて比較表示したときに見やすくするためです。この音圧波形では、振幅 = 波高と考えられます。大きい声では波高の高い波形が得られ、小さい声では、波高の低い波形が得られます。

リアルタイムモードの音圧波形例



ピッチ波形では、声の高さが波形の高さとなります。低い声では、波高の低い波形が得られ、高い声では波高の高い波形が得られます

リアルタイムモードのピッチ波形例

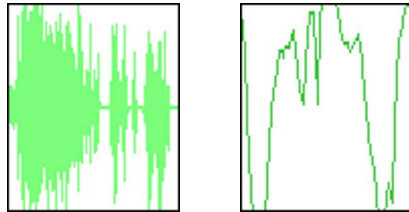


いずれの波形も、横軸は時間をあらわし、右方向に向かって波形を表示していきます。音圧波形がない部分は、単語と単語の間や音と音の間の無音区間、または教材や録音音声終了した無音部分です。また、ピッチ波形がない部分は、無音区間や無音部分、または“s”“t”“c”のような無声子音を発声している部分です。

波形を扱うときの注意

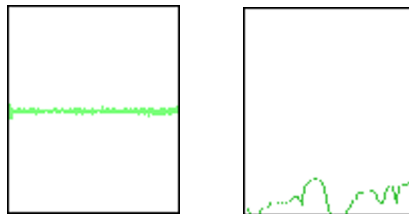
大きすぎる声や小さすぎる声では、効果的な学習ができません。
下図のような波形では、練習の目安がわかりにくくなります。

[縦軸からはみ出すような音圧波形]



→ 声を小さく発声して、波形がはみ出さないようにしてください。

[振幅（波高）がほとんどない音圧波形]



→ 声を大きく発声して、わかりやすい波形が得られるようにしてください。

周囲の雑音が大きいと、正しい波形が表示されません。

以下のような場合は、周囲雑音波形が表示されてしまい、音声との区別がつきにくくなってしまうことがあります。

[教材]

- 場面を設定するために、屋外などで録音され、周囲の音が入っている教材
- バックに音楽などが流れている教材



ピッチ波形は、周囲の音をノイズレベルとして音声から切り分けてください（操作方法は「周囲雑音などを除去してピッチ波形を表示する」(69ページ)をお読みください)。

または、音声だけが録音されている教材を使用してください。

[発声]

- 周囲に周期的な雑音や振動を発生するものがある（例 エアコン、プリンターなど）
- 周囲の人の声をマイクから拾ってしまう
- 部屋の中に音楽などが流れている



できるだけ雑音源をなくして、マイクボリュームを調節し、自分の発声のみの波形を表示するようにしてください。

マイクから鼻息や呼吸音が入ると、正しい波形が表示されません。

鼻息や口からの呼気の音がマイクから入ると、波形として表示されてしまうため、発声の波形との区別ができなくなります。

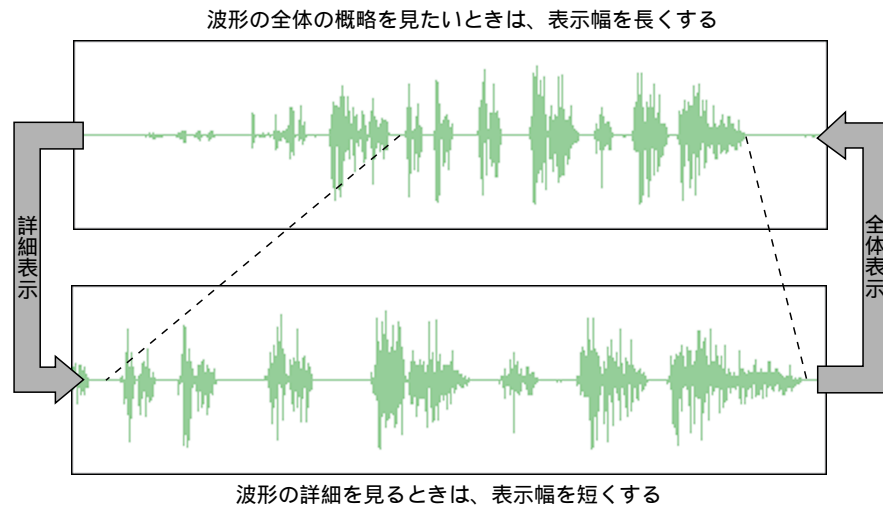


ヘッドセットのマイクアームの角度を調節して、マイクが鼻の近くや、口元の正面にこないように装着してください。

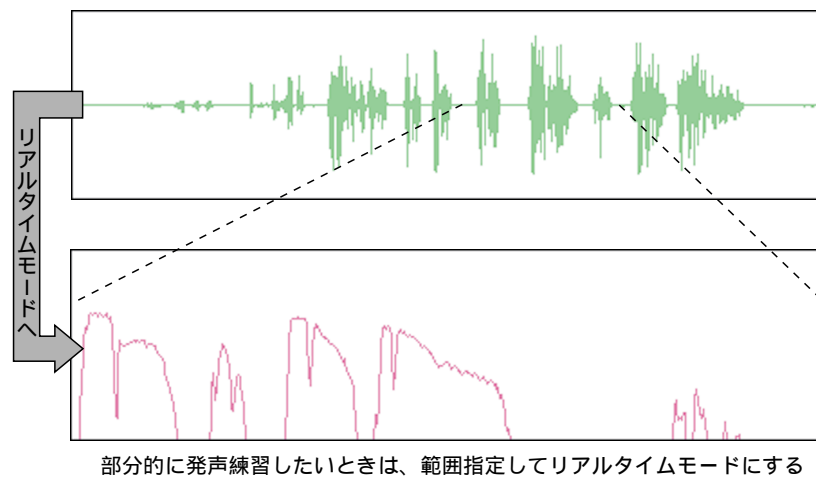
また、口元から少し外れた位置の場合は、発声を拾う感度が悪くなる場合がありますので、マイクボリュームを調節してください。

教材や発声の長さに対して、波形の表示幅（時間）が適切でないと、効果的な学習ができなくなることがあります。

波形表示を効果的に利用するには、表示幅（時間）の設定が重要になります。



表示幅の変更方法は、「表示幅を変更するには」(☞62ページ)をお読みください。



範囲指定方法は、「教材波形の範囲を指定する」(☞58ページ)または、「発声波形の範囲を指定するには」(☞62ページ)をお読みください。

リアルタイムモードへの移行方法は、「リアルタイムモードに移行する」(☞66ページ)をお読みください。

第4章

教材持ち帰りソフトの操作方法

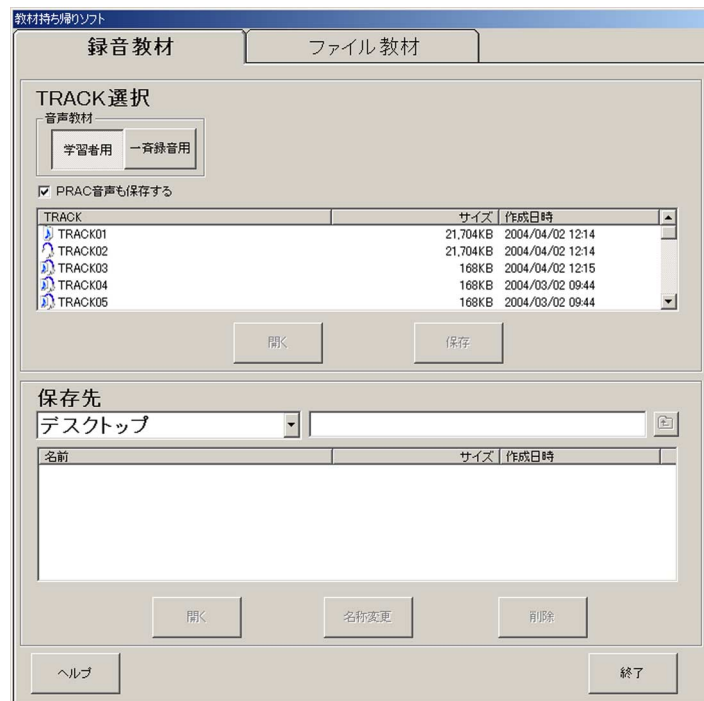
ここでは、自宅などでの学習目的で、学習者パソコンに保存された録音教材や動画ファイル、先生から配布されたファイルなどを、外部記録メディアに保存する「教材持ち帰りソフト」の操作方法について説明します。

もくじ

起動と終了	81
録音教材を保存する	82
配布ファイルを保存する	84
教材 / ファイルを開く	86
名称を変更する	87
保存したファイルを削除する	88
操作マニュアルを表示する	89

起動と終了

1. Windowsの[スタート]メニューから「プログラム」 「L3Stage」 「教材持ち帰りソフト」を選択します。
教材持ち帰りソフトが起動します。



注意

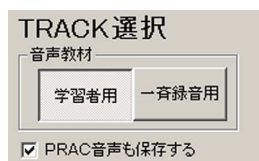
- 教材持ち帰りソフトは学習者ソフトと同時に操作することはできません。教材持ち帰りソフトを使用中に学習者ソフトを起動すると、教材持ち帰りソフトは自動的に終了します。
- 教材持ち帰りソフトは、保存先としてhomeworkフォルダーを自動的に作成し、その中に教材やファイルを保存します。
- 教材持ち帰りソフトの起動時には、Windowsデスクトップ上のhomeworkフォルダーを削除します。保存先にデスクトップを選択した場合は、次回起動時までにhomeworkフォルダー内のファイルを任意の場所に移動してください。また、デスクトップ以外の保存先を指定した場合も、前回のデータとの重複を避けるため、homeworkフォルダー内のファイルを任意の場所に移動するか、ファイルやフォルダーの名称を変更してください。

2. 教材持ち帰りソフトを終了するには、[終了]ボタンをクリックします。

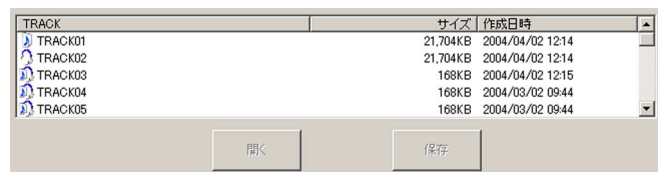
録音教材を保存する

ライブラリー学習で使用した録音教材とPRAC音声を音声ファイルとして保存します。音声ファイルは99個まで保存でき、それぞれ連番のファイル名に変換されます。


1. [録音教材] タブを選択します。
2. 「TRACK選択」で音声教材と一緒に、PRAC音声も保存する場合は、「PRAC音声も保存する」にチェックを入れます。ライブラリー学習では、一斉録音用TRACKは使用しないため選択しないでください。




3. TRACKを選択します。複数選択する場合は、キーボードの [Shift] キーまたは [Ctrl] キーを押しながら選択します。



TRACK名の先頭に表示されているアイコンは、TRACKの中に入っている教材の種類をあらわしています。

 : 音声教材のみ

 : 音声教材 + PRAC 音声


 : PRAC 音声のみ

4. 保存先の [] ボタンをクリックし、保存先のドライブを選択します。



選択した保存先には、homeworkフォルダーが作成され、その中に選択した録音教材が保存されます。「デスクトップ」はCD-Rに書き込むために一時的に使用します。CD-Rに保存するためには、別途CD-R書き込みソフトを使用して、書き込み作業を行ってください。その際、教材持ち帰りソフトは終了しておいてください。

＼保存先にサブフォルダーがある場合＼

- 保存先のhomeworkフォルダーの下にフォルダーがある場合は、保存先リストにフォルダーアイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックするとフォルダーが開きます。
- 一つ上のフォルダーに移動するには、 ボタンをクリックします。

5. TRACK選択リストの下の [保存] ボタンをクリックします。または選択したTRACKを保存先リストにドラッグ&ドロップします。

ファイル保存パネルが表示されます。音声ファイルをWindows Media ファイルに変換している間は、「ファイルの変換中...」と表示されます。

保存を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。



＼注意＼

音声ファイルをWindows Media ファイルで保存するためには、Windows Media Player9がインストールされている必要があります。

6. 保存が終了すると、保存先のhomeworkフォルダーの中に、教材の種類によって、以下の名称でファイルが保存されます。

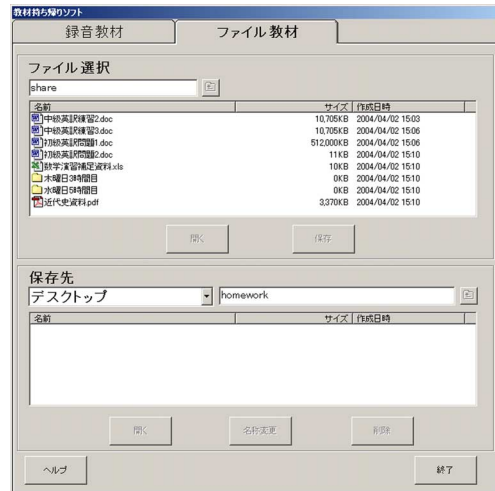
音声教材 : Audio01.wma (連番で99まで)

音声教材PRAC音声 : Audio_PRAC01.wma (連番で99まで)

配布ファイルを保存する

授業で先生から配布されたファイルを保存します。ファイル名は、元のファイル名と同じになります。

1. [ファイル教材] タブを選択します。
ファイル教材タブが前面に表示されます。



2. 保存するファイルを選択します。フォルダーを選択することもできます。




3. 保存先の [] ボタンをクリックし、保存先のドライブを選択します。

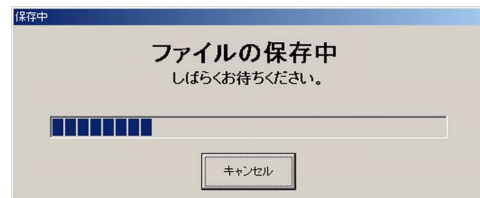


選択した保存先には、homeworkフォルダーが作成され、その中に選択しファイルが保存されます。「デスクトップ」はCD-Rに書き込むために一時的に使用します。CD-Rに保存するためには、別途CD-R書き込みソフトを使用して、書き込み作業を行ってください。その際、教材持ち帰りソフトは終了しておいてください。

＼保存先にサブフォルダーがある場合＼

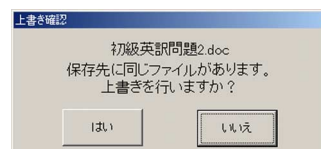
- 保存先のhomeworkフォルダーの下にフォルダーがある場合は、保存先リストにフォルダーアイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックするとフォルダーが開きます。
- 一つ上のフォルダーに移動するには、 ボタンをクリックします。

4. ファイル選択リストの下の [保存] ボタンをクリックします。または選択した配布ファイルを保存先リストにドラッグ&ドロップします。
- 保存中パネルが表示されます。
- 保存を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。



＼注意＼

- 配布された音声ファイルは、保存時にWindows Media ファイルに変換することはできません。
- 保存先に、すでに同名のファイルが存在する場合は、上書き確認パネルが表示されます。



教材 / ファイルを開く

TRACKの音声教材やPRAC音声、配布ファイル、保存した各種ファイルの内容を確認することができます。

1. 内容を確認したい教材やファイルを、リストから選択します。
2. 選択した教材やファイルが表示されているリストの下の [開く] ボタンをクリックします。
ファイルに関連付けられたアプリケーションが起動し、ファイルが開きます。

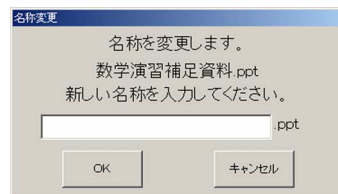
＼注意＼

- 教材やファイルを複数選択して開くことはできません。
- アプリケーションに関連付けされていない教材を開くことはできません。
- フォルダーを選択して [開く] ボタンをクリックすることはできません。

名称を変更する

保存した各種ファイルやフォルダーの名称を変更することができます。

1. 保存先リストから、名称を変更したいファイルまたはフォルダーを選択します。
2. リストの下の [名称変更] ボタンをクリックします。
名称変更パネルが表示されます。



3. 新しいファイル名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

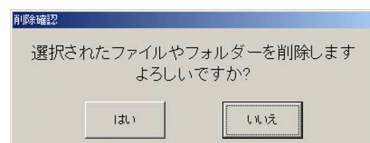
注意

- 保存元のTRACKや配布ファイルの名称を変更することはできません。
- すでに存在する名称と同じ名称に変更することはできません。
- ファイル名、フォルダー名は、全20文字（半角40文字）以内で入力してください。
- 半角の¥/;:*?"<>|は、使用できません。また、半角スペースのみ、半角ピリオドのみ、または両者の組み合わせを入力するとエラーになります。

保存したファイルを削除する

保存した各種ファイルを削除することができます。

1. 保存先リストから、削除したいファイルまたはフォルダーを選択します。
複数選択する場合は、キーボードの [Shift] キーまたは [Ctrl] キーを押しながら選択します。
2. リストの下の [削除] ボタンをクリックします。
削除確認パネルが表示されます。



3. 削除を実行する場合は、[はい] ボタンをクリックします。
選択されたファイルまたはフォルダーが削除されます。

＼注意＼

保存元の録音教材、配布ファイルを削除することはできません。

操作マニュアルを表示する

本マニュアルを表示します。

＼注意＼

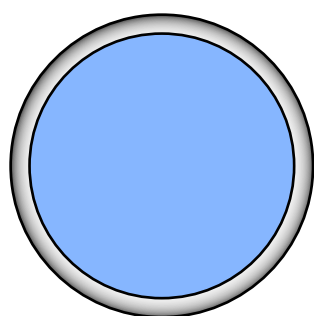
学習者パソコンに、Acrobat Readerがインストールされている必要があります。

1. [ヘルプ] ボタンをクリックします。



Acrobat Readerが起動し、本マニュアルが表示されます。

2. マニュアルを閉じるときは、Acrobat Readerを終了します。



付録

もくじ

トラブルシューティング	91
エラーメッセージ一覧	93

トラブルシューティング

ここでは、システム運用中に起こったトラブルの対処方法について説明します。トラブルが起こった場合、「確認していただく内容」欄に記載されている手順に従って対処し、再度操作して確認してみてください。

対処してもトラブルが解消しないときは、先生に症状を報告してください。

症状	確認していただく内容
音声が聞こえない	<ul style="list-style-type: none">• ヘッドセットのプラグを正しく差し込んでください。• スチューデントユニットのヘッドセット音量調節つまみ [PHONES] で音量を調節してください。
相手の声が聞こえない	<ul style="list-style-type: none">• スチューデントユニットのヘッドセット音量調節つまみ [PHONES] で音量を調節してください。• 相手側のスチューデントユニットのマイク音量調節つまみ [MIC] で音量を調節してください。
録音した教材音声が聞こえない	他のローカルフォルダーに教材が録音されていないか、確認してください。
PRAC音声が聞こえない	スチューデントユニットのマイク音量調節つまみ [MIC] で音量を調節し、再度PRAC録音してください。
教材再生中に音切れする、ノイズが聞こえる	<ul style="list-style-type: none">• ヘッドセットのプラグを正しく差し込んでください。• ヘッドセットのコードが、スチューデントユニット側面に固定されていることをご確認ください。それでもノイズが解消されない場合は、ヘッドセットのプラグ表面を清掃してください。
パソコンの画面に映像が映らない	<ul style="list-style-type: none">• ディスプレイの電源が入っているか確認してください。• ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
アプリケーションが起動しない	ランチャーパネルで先生から操作ロックが設定されていないかどうか確認してください。
波形が表示されない	<ul style="list-style-type: none">• [表示] ボタンをON状態にしてください。• ピッチ波形が表示されない場合は、ノイズレベルが高すぎないか確認してください。
教材波形が大きすぎるまたは小さすぎる	先生に知らせ、教材送出設定の「教材音声レベル」を調節してもらってください。
発声波形が大きすぎるまたは小さすぎる	スチューデントユニットのマイクボリューム調整つまみを調整してください。または、適当な波形が得られるように、声の大きさを調節してください。

症状	確認していただく内容
デスクトップに「Materials」フォルダーが表示されない	デスクトップのパスが変更されています。先生に知らせてください。

教材持ち帰りソフトに関するトラブル

症状	確認していただく内容
教材やPRAC音声、ファイルの保存ができない	<ul style="list-style-type: none"> • 保存先のパスが存在するか確認してください。 • 保存先のドライブが書き込み禁止になっていないか確認してください。
ファイルを開くことができない	教材やファイルが存在するか確認してください。
名称変更ができない	<ul style="list-style-type: none"> • ファイルやフォルダーが存在するか確認してください。 • 変更しようとしているファイルが開かれている場合は、終了してください。 • 名称変更するファイルが存在するフォルダーが書き込み保護設定されている場合は、解除してください。 • 保存先のドライブが書き込み禁止になっていないか確認してください。
削除ができない	<ul style="list-style-type: none"> • ファイルやフォルダーが存在するか確認してください。 • 削除しようとしているファイルが開かれている場合は、終了してください。 • 削除するファイルが存在するフォルダーが書き込み保護設定されている場合は、解除してください。 • 保存先のドライブが書き込み禁止になっていないか確認してください。
デスクトップに「homework」フォルダーが表示されない	デスクトップのパスが変更されています。先生に知らせてください。

エラーメッセージ一覧

ここでは、システム運用中に表示されるエラーメッセージの対処方法について説明します。エラーメッセージが表示された場合、「説明・対処方法など」欄に記載されている手順に従って対処し、操作して確認してみてください。
対処してもエラーが解消しないときは、先生に症状を報告してください。

メッセージ内容	説明・対処方法など
出席登録が拒否されました。 お待ちください。	先生が認証エラー処理を行うまで、そのままでお待ちください。[電源OFF]ボタンをクリックすると、パソコンの電源がOFFになります。
サーバーの接続中に、エラーが発生しました。	オーディオサーバー/ファイル配信サーバーの状態や、接続確認などが必要です。 先生にメッセージの内容を通知してください。 サーバーの状態、LANの接続を確認してください。
デバイスが準備されていません	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。指定したドライブにフロッピーディスクやCD-ROMをセットしてから改めてドライブを指定してください。
起動できません。設定されている内容に誤りがあります。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。設定の確認が必要です。先生にメッセージの内容を通知してください。
このファイルは開けません。 ファイルを開くアプリケーションを設定してください。	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。このファイルを開くときに通常使用するアプリケーションが起動できない状態です。 別のアプリケーションを使って開くように設定してください。
選択されたWBT型教材の起動に失敗しました	[OK] ボタンを押して、パネルを閉じてください。WBT型教材に異常がある可能性があります。先生にメッセージの内容を通知してください。

松下電器産業株式会社

首都圏本部

〒160-0022 東京都新宿区新宿5丁目15番5号 電話 フリーダイヤル 0120-878-410

© 2004 Matsushita Electric Industrial Co.,Ltd. All Rights Reserved.

3TR866ASPBA
av0604-1055